

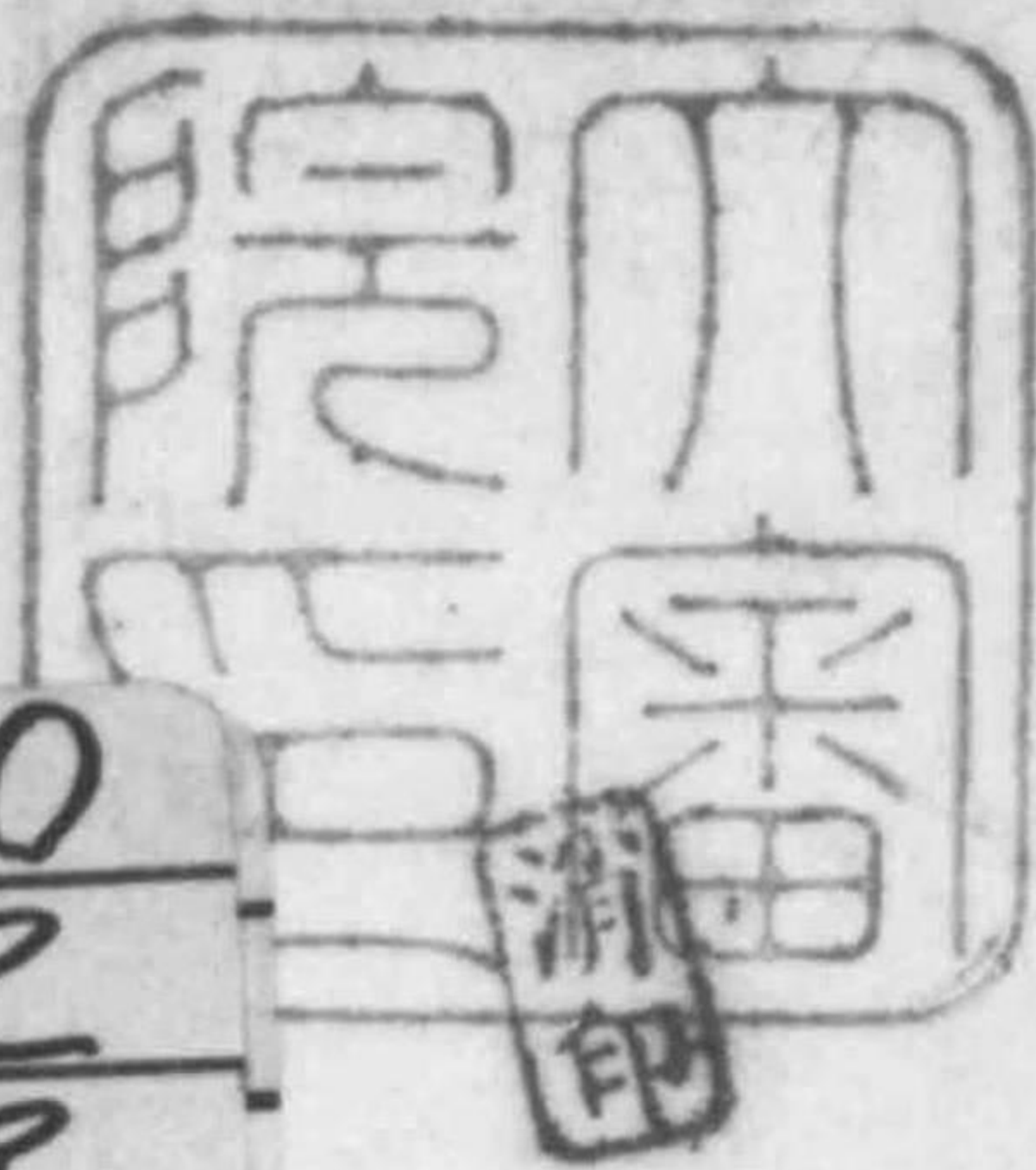
官版

國法汎論

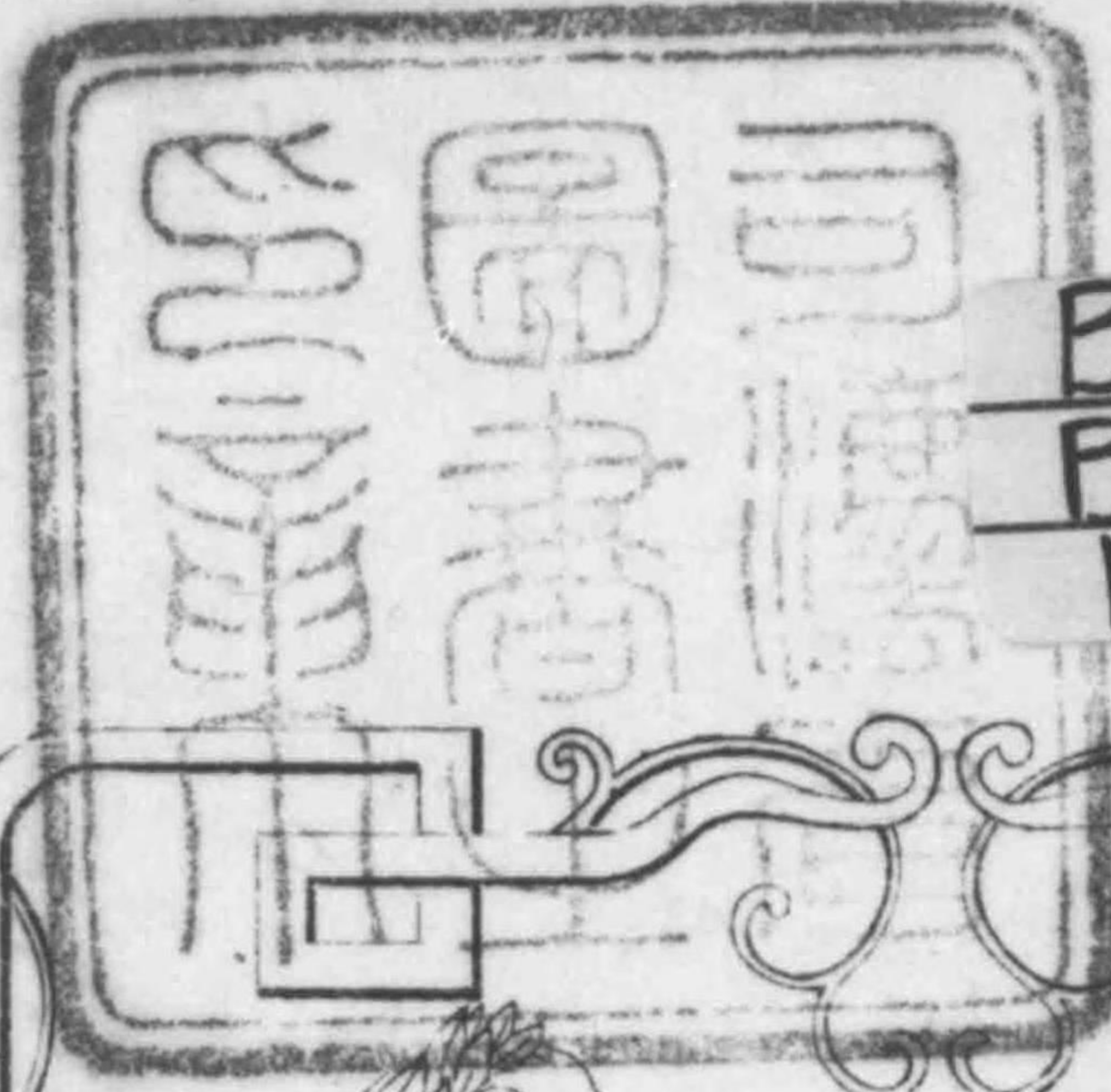
下帙

第二冊

第五拾二号



B200
B 2
I b2



明治五年刊行

イ、カ、ブルンチリ著
從五位加藤知之譯

國法汎論

文部省

下帙第二冊

大審院文庫
和書門
第三千八百號
第十一冊
第九号入

画ク處ハ本書論說中引證スル有名ナル人物ノ繡像ナリ

川上寛摸畫

ペーテルデルゴローセ



ルド井グ十五世



ハインリヒ七世





國法汎論卷之六 中目錄

下帙第二冊

第五款 國家ノ元首

第一 君主國ニテ其得位ノ體裁

第六款

第二 世襲法

第七款 繼位ニ就テ人體ノ應否

第八款

第三 民主國ニテ元首起立ノ體裁

第九款 先君ノ義務嗣君ニ遞傳スルノ法

第十款

第四 攝政職ノ設置

第十一款 政柄ノ失去

國法汎論卷之六 中

イ、カ、ブルン、エリ 著

加藤 弘 之 譯

第五款

國家ノ元首、スタットホルツ、按君主國ニテハ

ハ、君主ヲ元首ト云ヒ、民主國ニ

第一

君主國ニテ其得位ノ體裁、エント

フ、デングスホルム、

君主其位ヲ得ルノ體裁、古今數種アリ、

第一選立、太古羅馬ノ國法ニテハ、君主ヲ選立

スル法ナリキ、又中古ニ及ヒ、教士ノ君主トナル

國ニテハ、エプト、ビシフ〔按共ニ教化ノ官名〕及ヒ教皇〔按〕

ト、スラ、皆選立ナリキ、其他〔按〕匈牙利、波蘭、非尼亞

ノ君主、及ヒ獨乙帝國等ノ君主モ亦、皆選立ニ因

テ、其位ヲ得タリ、而シテ非尼亞國ノ君主ハ、ド

レゲト稱シテ、終身其位ニ在ルノ制度ナリキ、

〔第二〕世襲、此體裁中古ニ於テハ、之ヲ用ルノ國

屢々タリシカ、其後一至リ、漸ク歐洲各國ニ行ハ

レテ、今時ハ遂ニ一般ノ通法トナレリ、

〔第三〕世襲選立ノ合制〔按〕元ト世襲ノ法ナレバ、時

立制〔按〕加爾達額〔按〕古時〔按〕亞弗〔按〕及ヒ古時日耳曼各

國ノ制度ハ、世襲選立ノ二制ヲ合用セリ、〔卷之四〕

款ヲ參照スヘシ、

〔第四〕養嗣禪位ノ制、羅馬ニテ君主自ラ國法ニ

因テ、其繼嗣ニ耐ル者ヲ選舉シ、之ヲ子養シ、以テ

其位ヲ禪リシトアリ、俄羅斯彼得大帝モ、一時此

ノ制度ヲ立テシトアリ、

〔第五〕屬國君主ノ選任、大國ノ君主其屬國ノ君

主ヲ選任スルコトアリ、中古ノカロリンゲル氏〔按〕中

古〔按〕羅馬帝國ニ登リシ氏族、及ヒ獨乙建國ノ初メ其

小邦ノ君主ヲ選フニ、此制ヲ用ヒ、迄今ニ至リテ

七、那破倫之ヲ用ヒ、土耳其國亦之ヲ用フ、

〔第六〕新建國君主ノ選立、新國ヲ建立スルニ方
リテ、他各國之ヲ認許スルキハ、互ニ條約ヲ定
テ、其君主ヲ選立スルヲアリ、

〔第七〕君主ノ自立、國家戰亂顛覆ノ際、其他危急
存込ノ秋ニ方リテ、一豪傑衆ニ擢テ、國家ノ大權
ヲ掌握シ、以テ自ラ君主トナルヲアリ、本卷第十
照ビ去レ此ノ如キ大事業、若レ公理ニ戻リ、正
義ニ背クキハ、則徒ラニ覆法ノ叛民タルノミ、[⊖]

⊖ 比的利、^テル、ゴロ一セ
^フリ、^ドリ、^レセ
〔按普魯士國王、一千七
百十二年ニ生レ、八十

六年ニ殂ス、又比的
利、第二世ト稱ス、曰、臣民正義ヲ以テ君主ト

ナルハ、唯選立制度ノ國ニ生レテ、其選立ニ膺
ル時、若ハ國家將ニ込ヒントスルニ方リテ、忠
憤愛國ノ心ヲ以テ、再ヒ國家ノ不羈獨立ヲ復
スル時ニ在ルノミ、ト

〔第八〕強大ナル外國ノ威カヲ以テ、君主ヲ立置ス
ルヲアリ、

以上諸體裁中、世襲選立ノ二法ニ就テハ、殊ニ其
得失利害如何ニ於テ、諸大家ノ所見、及ヒ各國ノ
公論紛然一定セサリキ、○選立ヲ以テ是トスル

徒ハ國家終始賢明ノ君ヲ得ント欲セハ唯選立
 ノ法ヲ用フルニ如カスト云フ、元來選立法ヲ用
 フルノ本旨ハ終始賢君英主ヲ要スルニ在リ、右
 レ世襲ノ法ヲ用フルキハ賢明ノ君ヲ必得スル
 能ハサル、固ヨリ論ヲ須タス、加之選立ノ法ヲ用
 フル國ニ於テハ其臣民タル者、司選候ワスルト按
 昔時獨乙國ニテ、國帝ヲ選擇ノ國帝ヲ選擇スル
 スル權利ヲ有セシ候伯ノ類、
 ニ方リテ、之ニ左袒スルト否トハ、自己ノ意ニ隨
 ヒ、其可トスル者ハ、之ニ左袒シ、否ラサル者ハ、之
 ニ左袒セサルヲ得ルナリ、○此等ノ利アルヲ以

テ、古昔ハ選立ノ法ヲ是トスル論、殊ニ居多ナリ
 キ、

然ルニ近令ニ至ルニ及ヒ、選立ノ法ヲ非トシ、却
 テ世襲ノ制ヲ是トス、其執當ニ學者ノ議論上ノ
 ミナラス、世間ノ輿論亦普ク此制ヲ是トスルニ
 至レリ、近令ノ學者中、獨シスモシダノミ、按瑞士
 年ニ死ス、選立制度ノ是、○今下章ニ於テ將ニ選
 立制度ノ不可ナリ、所以ヲ論セントス、
 第一、真ノ賢者ヲ選擇スル、甚タ易事ナラス、然ル
 所以ニ二理アリ、選者ノ識鑒其當ヲ失シ、或ハ誤

リテ疑徳ノ小人ヲ選立ス、是一患ナリ、去レ此
 選擇ノ一事ニ止ラス、人世萬事、十全ヲ求ムルハ、
 惑ヘルノ甚キ者ナレハ、此一失ヲ以テ、強テ選立
 ヲ不可ト為ルニハアラス、尚一理ノ斷然不可ト
 為サ、ル可ラサル者アリ、凡ソ選立國ニテハ、才
 徳衆ニ超ル者ハ、遂ニ君位ヲ得可キノ制度ナレ
 カ故ニ、其選立ノ時ニ方リテ、權力熾ナル者ハ、獨
 其威ヲ逞クシ、其他比朋ノ黨與起リ、公卒ノ心ヲ
 以テ、國家ノ為メニ謀ルヲ遺ヒ、多クハ各私心
 ヲ抱キ、私利ヲ營ムカ為メニ、遂ニ自餘司選者ノ

權利ヲ屈撓シテ、自由ノ道ヲ塞キ、以テ選擇公正
 ヲ盡スヲ能ハサラシム、是ニ患ナリ、是ニ於テ選
 立ノ制ハ、遂ニ虚器トナリテ、其實ハ獨リ威力熾
 ナル徒人、恣ニ其私ヲ營ム具タルニ過キス、羅馬
 ノ帝爵國タリレ時ニ於テ、此ノ如キ弊害多カリ
 キ、

〔第二〕動モスレハ司選者中其好ム處ニ僻シテ、之
 ヲ選舉セント欲シ、執拗ノ勢、各黨相軋シ、釁隙猜
 忌ノ餘、遂ニ戰ヲ用ルニ至リ、國家ノ安寧ヲ害ス
 ル憂ト為ル、昔時獨乙國ニ於テ、屢此ノ如キ弊ヨ

リ、國亂ヲ生セシメテアリ、但、選立ノ制度ヲ改革シ、其宜シキヲ得ルキハ、此憂ヒヲ除クテ、寧難キニアラズ、是亦獨乙史上ニ歴然タリ、レスモンジノ説ニ、選立ノ國ニ於テハ、踐祚ノ争ヨリ國亂ヲ生スルコト多シ、去レテ其勢ヒ甚タ頑執ナラスレテ、國家ノ治安ヲ害スルモ亦淺ク、且ツ鎮制ニ就クモ速ナリ、然ルニ世襲ノ國ニ至リテハ、之ニ由リテ國亂ノ生スルコト甚タ希レナリト雖モ、若シ一旦騷擾ノ起ルコトアルキハ、其勢甚タ頑執ニシテ、國家ノ治安ヲ傷ルコト少カラズ、且ツ之ヲ撲滅ス

ルモ亦甚タ易事ニアラスト謂ヒシハ、理ナシト云フ可ラス、

第三選立數次ナルニ隨テ、曾テ王位ヲ得シ諸家闔國ニ充滿シテ、互ヒニ相猜忌シ、各其志ヲ逞ウセント欲シテ、相爭奪スルノ憂ヒアリ、○此憂ヒハ既ニ隆盛ナル國、及ヒ將ニ衰運ニ傾ントスル國等ニテハ、最モ恐ルヘクシテ、國家ノ安寧ヲ害スルコト最モ劇シ、舊羅馬ノ帝爵國タリシ時ニ於テ、此禍害多カリキ、○但シ將サニ隆盛ニ至ラントスル國ニ於テハ、此ノ如キ禍難ニ因テ、却テ國

家ノ榮利安康ヲ増進スルヲアリ、其例ハ舊羅馬ノ王爵國タリシ時、及ヒ民主國トナリシ頃ノ事迹ニ於テ明瞭ナリ、

〔第四〕先君既ニ没シテ、未^レ嗣君ヲ選立セサル間ハ、一時虚位ノ國^レツ井^レセン^トナルヲ以テ、是^レニ因リテ生スル所ノ禍害亦尠カラス、○加^ハ特^レ力^キ教派^一〔按ト云^ス、^レ主^ニ教^ニテ、其^ノ教^皇ノ没^シタル時、速^ニ嗣位ノ教皇ヲ選立スルノ規律ニ倣^テ、先君ノ没後、速^ニ嗣君ヲ選立スルノ規律ヲ設ル歟、若クハ先君主ノ未^タ没セサル時ニ於テ、預^メ嗣君ヲ選擇スル

ノ制度ヲ設ル片ハ、一時虚位ノ國トナルカ為^ノニ生スル所ノ憂患、或ハ少^シク減スヘキカ如シト雖^モ、未^タ全ク此憂患ヲ根去スト為^ス可^ラス、○世襲ヲ非視スル徒ノ論說ニ、世襲ノ國ニ於テ、先君既ニ没シ、嗣君尚幼冲ナル片ハ、攝政之ニ代リテ、權ニ万機ヲ掌ルト雖^モ、必^シモ嗣君ノ為^メニ謀^ラス、動^モスレハ竊カニ其私ヲ營ム者ニシテ、是^レニ因^リテ生スル所ノ禍難亦尠カラス、加之此禍難ノ時間ハ、選立國ニテ一時虚位國トナルカ為^メニ、生スル禍難ノ時間ヨリモ、甚^ク大^ナリト

云フ、起例國ニ此ノ如キ禍難ノ

第五司選候動モスレバ其戚族ヲ選立シテ、世々君主トナサンヲ謀ルノ恐少カラス、且ツ又選立國ニテハ、動モスレハ君主自ラ大憲ヲ破ルノ憂ヒアリ、○司選候ノ權力愈強大ニシテ、能ク大權ヲ其掌中ニ握ルニ堪ルキハ、是等ノ害亦隨テ愈大ナリ、世襲法ノ選立ニ勝ル所以ハ、下文ノ數條ニ於ルカ如シ、

第二王室ト臣民ト相親附スルヲ、譬ヘハ猶頭首

ト體軀ト相連絡スルカコトク、且ツ其相維持スルヤ、帝ニ一身ノ終生ニ止ルノミナラス、世々繼續シテ、斷絶スルヲナシ、是故ニ國家ノ元氣終古衰頽セス、民心ノ和同永ク保存スヘシ、蓋シ世襲君主ハ、實ニ國家ノ全カヲ會メテ、之ヲ一身ニ寄ル者ナリ、

第二是故ニ世襲君主ハ、實ニ國家ノ全カヲ一身ニ會ムル者ニシテ、億兆ト世々其存込ヲ共ニス、故ニ其憂樂利害亦全ク相異ナラス、王室ノ利樂ハ、獨リ王室ノ利樂ナルノミナラス、即チ共ニ臣

民ノ利樂ナリ、臣民ノ憂害ハ、獨リ臣民ノ憂害ナ
 ルノミナラス、即共ニ王室ノ憂害ト云フ可ク、盛
 衰興亡都テ相共ニシテ、決シテ相離レサルナリ、
 ○世襲君主ニアリテハ、實ニ無道ヲ極メテ、子孫
 ノ存亡ヲモ顧ミサル暴君ニアラサレハ、彼ノ「余
 カ没後大洪水アルヘシ」〔按〕國王路湯第十五世
 暴逆無道ヲ極メテ一身ノ欲ヲ充レハ足レリ、子
 孫ノ存亡興敗ニ至テハ、天命ニ任セテ敢テ顧ミ
 スト云フ、ト云フカ如キ暴言ヲ發スルハ、決シ
 テ有ラサルヘシ、然ルニ選立君主ノ如キハ、縱令
 英明ノ人ト雖モ、一旦私欲ノ念發スルニ至リテ

ハ、動モスレハ國家億兆ヲモ顧ミス、恣意無道ヲ
 極メテ、以テ國家ノ敗亡ヲ招クアリ、
 〔第三〕王室ト臣民ノ憂樂利害全ク相異ナラス、且
 ツ奕世君トナリ臣トナリテ相離レサル、猶頭首
 ト體軀ノ相連絡スルカ如クナルカ故ニ、君臣相
 愛スルノ情甚タ深く、億兆ハ一君主ヲ親戴シ、其
 尊榮ヲ畏敬シ、以テ一君ノ身ハ即チ是レ國家全
 カノ相會マル所ナリト為ス、是ニ於テ臣民ノ王
 室ヲ尊崇シ、王事ニ勤勞スルノ赤心益深ク、隨テ
 國民ノ性情頗ル寛厚トナリ、其志操モ亦大ニ増

進スルヲ得ヘシ、

〔第四〕世襲君主ハ、一身ノ嗜欲及ヒ國家ノ經濟ニ於テ、能ク節度ヲ守ル者多シ、蓋シ今日ノ需用ニ於テ足ラ知テ、唯失ハレテ恐ル、カ故ナリ、是故ニ嗜好ノ慾ヲ恣ニスル、自ラ少ク、常ニ能ク容忍スルモノニシテ、隨テ國家モ亦自ラ豐富ヲ得ルノ理ナリ、

〔第五〕世襲制度ノ國ニテハ、臣民實祚ヲ覬覦スルノ意ヲ生スルコト少シ、縱令ヒ臣民中ニ威望勲勞衆ニ踰ル英傑アルモ、敢テ王位ニ昇ル能ハス、若

シ又國家ニ朋黨起リ互ニ相猜争レテ、其首魁タル者大ニ威カヲ逞クシ、國權ヲ操ント欲スルモ、遂ニ君威ニ防遮セラレテ、其志ヲ遂ルコト能ハス、世襲選立ノ利害得失ハ、以上ノ數件ニ論スルカ如シ、去レ凡古來預ノ斯利害得失ヲ論究レテ、然後ニ此ニ制ノ可否ヲ參決シ、以テ其國制ヲ立レモ、ハ殆希ニシテ、多クハ唯古今ノ事迹現在ノ形勢ニ由テ、之ヲ定ム、畢竟從來因襲ノ制度ニ從フコト最モ緊要ナリ、
レモシモシニ出テスレテ、從來ノ制
度ヲ改革スルキハ、實ニ恐ルヘキ
禍害ヲ招クコト必然ナリト云ヘリ、

古今沿革ノ蹟ヲ歴看スルニ、世襲國ノ一變シテ、
 永ク選立國トナリレハ、殆ト罕ナリ、但レ一旦舊
 王室倒レテ、一時選立國トナリレテ無キニレモ
 アラサレモ、又直ニ再變シテ、選立君主遂ニ新王
 室ヲ開キ、以テ其位ヲ子孫ニ傳フルヲ得レテ多
 シ、○古來選立世襲二制共ニ或ハ幸ニレテ數世
 ノ久レキニ延ル者アリ、或ハ不幸ニレテ速ニ斷
 滅セシ者アリ、○或ハ專ラ賢明ヲ貴フ國アリ、或
 ハ專ラ門閥ヲ貴フ國アリテ、其意趣各相同レカ
 ラス、其利害亦時ニ隨テ各殊ナリ ○民風衰敗

セレ國ニテハ不徳ノ小人ヲ選立レテ其非ヲ悟
 ラス、羅馬帝國ノ事蹟ヲ以テ鑑戒トナスヘシ、○
 王室盛衰存亡スル所以ノ理、宛カモ活物盛衰死
 生スル所以ノ理ニ異チラス、王室既ニ數世ノ久
 レキヲ經テ、其元氣漸ク衰弊スルテ、例ヘハ佛朝
 哥國按歐洲ノメロウヰンゲル朝初世按佛朝ノ王室ニ於
 ケルカ如ク、又君民ノ間相和セスレテ、互ニ仇視
 スルテ、例ヘハ英國ノ斯按英國亞爾的朝按英國ト其
 臣民トニ於ケルカ如ク、又君民ノ心情全ク相離
 隔スルテ、例ヘハ佛國ノボウルボン朝按佛朝ト

其臣民トニ於ケルカ如ク、或ハ闔國列邦ノ民心
 全ク和同セント欲スト雖モ、其君主ハ之ヲ喜ハ
 スシテ、却テ外國政府ニ依頼シテ、其擁護ヲ仰ク
 一、例ヘハ以太利列邦ニ於ケルカ如クナルキハ、
 臣民遂ニ尊王ノ心ヲ遺レ暴力ヲ以テ之ヲ倒シ
 遂ニ新王室ヲ戴テ、國家億兆ノ一和カヲ復スル
 ハ、必然ノ勢ナリ、

○國民門閥ヲ重シテ、系統尊キ王室ヲ喜フ
 ノ情アルハ、即世襲制度ノ、堅固ニシテ壞レ難
 キ所以ナリ、佛國スラ尚未タ此情ヲ脱セサル

ハ、嘗テ路易那破倫ルイガクナボレン 三按那破倫ボレンヲ選擇セシニ
 テ明瞭ナリ、但佛國ノ如ク古來數次ノ革命ア
 リテ數王家ノ子孫今尚駢存ル國ニ於テ、君主
 政體ヲ存セント欲セハ、選立制度却テ利アル
 ヘシ、

第六款

第二 世襲法グダス、ユルト

近世文明開化ノ世トナリシ以來ハ、都テ公私ヲ
 混淆スルヲナキカ故ニ、世襲繼位ノ事ニ就テモ

必茲ニ着意シテ、繼位ト繼統ノ別ヲ明カニシ、繼位ヲ以テ國家ノ公事トナシ、繼統ヲ以テ王室ノ私事トナス。○去レ凡繼位法ハ、素ト世襲ニシテ、子孫繼續スルヲ主ト為スカ故ニ、全ク繼統法ト相離ル、者ニアラス、必此法ニ因テ、繼位法ヲ定ムル者ナリ、

〔第二〕世襲法ハ、國法上ニ於テ、必預定スルヲ緊要ナリ、然ル所以ハ、此事殊ニ、國家ノ安危ニ關スル甚大ナレハナリ、中古ハ國法上ニ於テ、預メ世襲法ヲ確定スルヲ無カリシカ故ニ、王族等論ヲ開キレハ、此○是故ニ世襲法ハ、必憲

法ヲ以テ確定スヘシ、決シテ君主ノ意ヲ以テ之ヲ變改セシム可ラス、是即通則ナリ、古時羅馬ニテハ、此ノ如キ制度アラサリレカ凡獨乙ノ私法ニ於テハ、此規律既ニ備ハレリ、○抑嗣君王位ヲ繼クノ權利タルヤ、直ニ之ヲ先君ニ受ルニアラス、又先君、私身ニ代リテ之ヲ得ルニアラス、嗣君ノ之ヲ得ルハ、自カラ當然ノ法アリテ之ヲ得ル者ニシテ、此事獨乙ノ家産相續法スロムグト其理ヲ同ウス、○王室一系譬ヘハ一體ノ如ク、歷世子々孫々相續テ、暫クモ斷絶セズ、先君没

スレハ嗣君當然ノ權利ヲ以テ直ニ其位ヲ繼ク者ニシテ、寶祚湏臾モ空虚ナラサレハ、恰モ一王ノ永ク死セサルカ如シ、

〔第三〕是故ニ嗣君位ヲ繼クノ權利ハ、先君没シテ然後ニ始メテ得ル者ニアラス、必預メ確定スル所ノ者ニシテ、實ニ至重ノ權利ナルカ故ニ、嚴ニ國法ヲ以テ保護スヘシ、君主ノ權ト雖モ、決シテ與奪ヲ恣ニスル能ハサルナリ、

歐洲ニテハ、封建ニ類スル制ナリ、〔按〕稍、四第九款大ニ此繼位法ノ起立ニ裨益ヲ為シタ

レモ、此法タル決レテ其裨益ノミニ因テ起立セシニハアラス、繼位ノ事亦實ニ最大公事ナルヲ以テ、自カラ起立セレ者ニシテ、之ヲ要スルニ此事誠ニ國家ノ大事ナレハナリ、故ニ輒近ニ至リ、藉土ノ制ハ全ク壞レタレモ、繼位法ハ共ニ壞ルルコトナク、今仍依然タルハ、蓋シ此理有ルニ因テナリ、

〔第三〕繼位法ハ方今必ス國憲ルスタスニ載セテ確定スル所ニシテ、國憲諸條中ニ於テ重大ナル者ノ一ナリ、

繼位ノ事ハ右ノ如ク至重至大ナルヲ以テ、君主ト雖モ私意ヲ以テ輕シク動ス能ハサル者ナリ、是故ニ君主遺言、或ハ婚媾條約、（エ）婚媾ノ時ニ方（リ）テ、將來ノ事ニ就テ、互ニ結フ所ノ條約ナリ、又ハ王室ノ一家憲法ハ、（ヒ）ニ結フ所ノ條約ナリ、又ハ王室ノ一家憲法ハ、（ス）デ、等ニ依テ、國憲ヲ犯シテ繼位法ヲ變更スル（キ）ツ、等ニ依テ、國憲ヲ犯シテ繼位法ヲ變更スル（ト）ハ、萬々得可ラサル者ト為ス、

中古ノ世ハ寶祚ヲ以テ君主ノ私有トナシ、且ツ常ニ國法ト私法ヲ混淆シテ、未タ其別ヲ立ルヲ知ラサリケレハ、此繼位ノ事ニ就テモ亦、人々ノ所見全ク今世ト異ナリキ、但シ其頃ノ所見今尚

未全ク滅盡セス、方今ノ國法中、儘其遺踪ノ存スル者ナキニアラサレモ、既ニ漸次漸消スルノ時

到レリ、

〔第四〕繼位ノ權利ハ、此ノ如ク公明正大ノ理ニ出

ルヲ以テ、方今立憲國（按）立憲政体（立）ノ文明ナル

制度ニ於テハ、繼位法ヲ變革セント欲スレハ、必

國憲ヲ改正スル規律ニ從テ、立法諸部局ノ議定

ニ因ラサルヲナク、且ツ君主ノ外尚、王族中ニテ、

繼位ノ事ニ與ル者モ亦、此會議ニ加ハリテ、共議

スルヲ要ス、但シ國憲中若シ此件ヲ載セサレハ、

必スレモ之ヲ要セサルヲ、猶新法ヲ以テ一二公權
利ヲ變革スルニ方リテ、此公權利ヲ有スル者、其
會議ニ加ハルヲ要セサルカコト也、

繼位ヲ變更スルノ法數種アリ、或ハ全ク從來ノ
繼位法ヲ廢シテ、更ニ其新法ヲ設クル者アリ、或
ハ唯一人ヲ除ク者アリ、或ハ并セテ子孫ヲ除ク

者アリ、英國ニテスツアルト氏ヲ廢シ、瑞典國ニ
テグマターフ第四世ノ子孫ヲ廢シ、仙國ニ
ニテボウレン氏ノ宗又ハ唯一人ヲ立ルヲ、
家ヲ廢セシノ類是ナリ、又ハ唯一人ヲ立ルヲ、
リ、或ハ并セテ子孫ヲ立ルヲアリ、瑞典國ニ於テ
仙國ノ尋常ノ廢立法ヲ用ヒス、ベルナルカ如ク先
但此時尋常ノ廢立法ヲ用ヒス、ベルナルカ如ク先

朝ノ養嗣トシ、其位ヲ繼カレシカ
故ニ其處置最モ容易ナルヲ得タリ、

第五世襲法ニ於テ、男ヲ先キニシ、女ヲ後ニスル

ハ、各國皆同ク、唯其制限ニ至テハ各相異ナリ、

甲 佛國ノ國法ハ羅馬ト同クシテ、女子ハ必

王位ヲ繼クヲ能ハス、瑞典、比耳時、及ヒ普

魯士等亦然リ、

乙 獨乙各國ノ法ニテハ、王族中男子ノ位ヲ

繼クヘキ者アレハ、女子決シテ繼位スル

ヲ得ス、但シ男子全ク缺クルルハ、血統最

モ近キ女子位ヲ繼クヲ得、去レテ其子ニ

至リテハ、又男ヲ先キニシ女ヲ後ニスル
仍前法ノ如シ、荷蘭國亦然リ、

丙

英國ノ法ハ、本族中男子缺クレハ、繼令ヒ

支族中ニ男子アリト雖ヒ之ヲ措キ必ス

本族中ノ女子ヲ立ツ、西班牙、葡萄牙亦然

此法ヲ用フル國ニ於テハ、王室氏族ノ

變革スルヲ多次ナリ、一、千七百二十三年

年ニ生レ、八十年ニ死ス、ノ著書ニ、英國ニ

テハ、輓近ニ百年間、氏族ノ變レタルヲ四

次ナリ、第一オハラニ、第二ハラウニス

ソイグ氏、第三ハンノ、第四コニス

是ナリ、

〔第六〕國家ハ專ラ一致和同ヲ要ス、故ニ決シテ其

版圖ヲ分割スルヲ許サス、故ニ又數人同時ニ王

位ヲ繼クヲ許サス、○中古佛郎哥國、及ヒ其他ノ

各國ニテ、版圖ヲ分割シテ之ヲ許多ノ嗣君ニ與

ヘシ、譬ヘハ猶尋常遺物ヲ數子ニ分與スルカ

如クナリレカ、是全ク國家ヲ以テ君主ノ私有ト

為スノ習俗ヨリ起リレナリ、

〔第七〕世襲繼位ハ、唯嫡出ノ子ニ許スヘク、決シテ

庶出ノ子ニ許スヘカラス、且ツ其他婚媾條約中

ニ、將來所生アルモ、決シテ王位ヲ繼カレメサル

ノ旨ヲ載セシ片ハ其子ハ實ニ嫡出ナレト取テ
繼位ヲ許スヘカラス、此ノ如キ制度ヲ立ルハ他
キ者有ルヲ以テナリ去レ若レ此者ノ繼位權利
ヲ廢スルハ此子直ニ繼位ノ權利ヲ得ヘハ
○上ノ〔第四〕ニ論スルカ如ク國憲ヲ以テ繼位法
ヲ變スルキハ此ノ如キ王子ト雖モ或ハ亦繼位
ノ權利ヲ得ルヲアリ、但シ王室敢テ私ニ此ノ如
キ變更ヲナスラ得ス、

〔第八〕其他各國近今ノ國憲一於テハ多クハ唯同
等ノ婚媾エーベル同等ノ男女相婚スルノ義義門ヨリ生ル
ル所ノ子ニ非サレハ敢テ繼位ヲ許サ、ル法ナ

リ、○現ニ君位ニ在ル所ノ氏族、或ハ往時君位ニ
在リシ氏族ノ男女相婚スルヲ稱レテ、同等ノ婚
媾トナス、且ツ獨乙ノ國法ニテハ輒近君權ヲ奪
ハレタル高貴族スヘバンデト相婚スルモ亦同等
ノ婚媾ト稱シテ可ナリ、○然ルニ又儘一家憲法
ニ於テ、他族ト相婚スルキハ、縱令ヒ其氏族國ノ
高貴族ニ列スルト雖モ、之ヲ同等ノ婚ト稱セザ
ルモ、アリ、此事甚タ頑陋ノ習ニレテ、中古ノ風
俗ニモ猶劣レリ
婚媾ノ一ニ就テ、此ノ如ク制限ヲ立レハ、獨乙固

國法論 卷六 中 九 大正 部 卷

有ノ風俗ニシテ其源ハ私法ヨリ轉シテ繼位法ニ波及シ今ニ至リテ其遺習ノ尚存スル者ナレハ大ニ門閥懸隔ノ風ヲ長スル者ニシテ開化文明ノ今日ニ於テハ決シテ緊要ノ事ト為スニ足ラス

〔第九〕王家婚媾ノ一ハ重大ニシテ其生ム所ノ子曹ニ父ノ私有ヲ得ルノミナラス兼テ亦繼位ノ權利ヲ得ル者ナルカ故ニ必先國君或ハ代國府ノ許諾ヲ得テ然後ニ此婚媾ヲ定ムル一固ヨリ緊要ナリ何者此事ノ設置大ニ國家將來ノ榮辱

安危ニ關係スレハナリ○故ニ此事ニ就テハ國君及ヒ代國府專ラ國家將來ノ榮辱安危ヲ顧慮スル一甚タ緊要ニシテ決シテ勿ク輕舉ス可カラズ去レ此事既ニ關心ノ累ナケレハ自餘ハ都テ相婚媾スル男女ノ意ニ任スル一固ヨリ當然ナリ然ルニ尚種々ノ陋習ヲ守リ或ハ他族ノ混同ヲ忌ンテ男女自由ノ權利ヲ限制スルハ甚タ非理トス○王家婚媾ノ事ハ右ノ如ク重大ナルヲ以テ方今各國ノ國憲必ス其規律ヲ載定ス

○西班牙國一千八百三十七年天保八年ニ議定ス

國法論 卷六 中 九 大正 部 卷

ル所ノ國憲第四十九條ニ、左ノ文ヲ舉ク、曰ク、
 「國王將サニ婚媾セントスルニ方リ、必先、其旨
 ヲコルテス、〔按〕立法府ノニ告示シ而レテ其婚
 稱號ナリ媾條約ハ、必、此府ノ検査ヲ經、其許可ヲ取リテ、
 然後ニ之ヲ約結スヘシ、嗣君ノ婚媾ニ於ケル
 モ亦然リ、且ツ國君嗣君共ニ憲法ニ於テ、繼位
 ヲ許サ、ル者ト、相婚スルヲ禁ス、又葡萄牙國
 一千八百二十六年文政九年ニ議定スル所ノ國憲
 第九十條ニ、左ノ文ヲ舉ク、曰ク、若シ自今王子
 ナキカ為メニ、王位ヲ繼クヘキ王女ハ、必ス國

君ノ許可ヲ得サレハ、婚スルヲ能ハス、若シ國
 君既ニ没スレハ、必スコルテスノ許可ヲ經テ、
 然後ニ婚スヘシ、而レテ其贅夫ハ、敢テ國事ニ
 預ルヲ許サス、且ツ所生アルノ後ニアラサレ
 ハ、〔按〕通常王ノ號ヲ用フルヲ許サス
 ト、

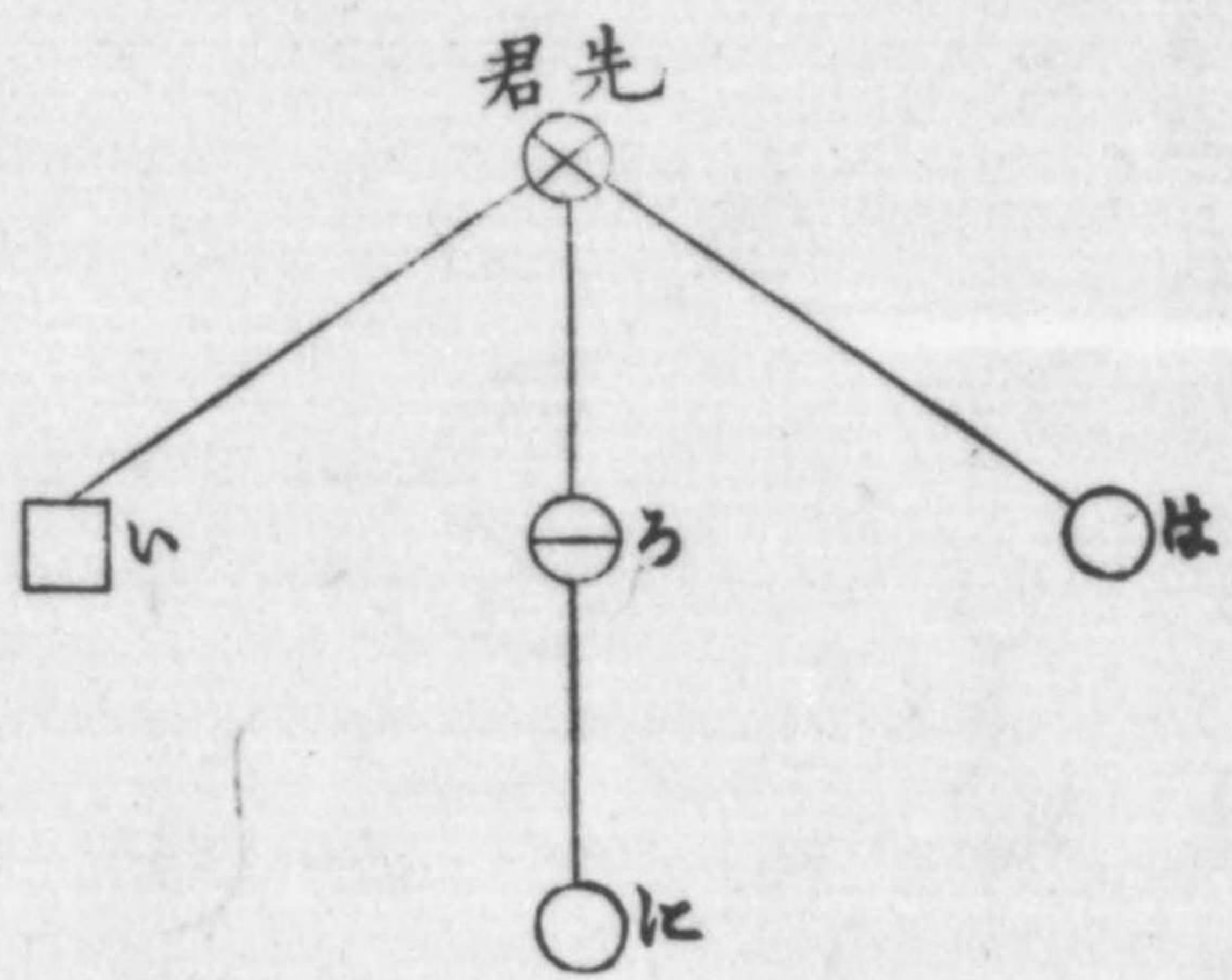
第十繼位ノ序次ニ於テハ、方今各國皆長幼ノ序
 ニ從フ法ナリ、此故ニ先君没スレハ、長子必ス其
 位ヲ繼ク、長子若シ先君ニ先ツテ没スレハ、長孫
 之ヲ繼テ、先君ノ次子ハ之ヲ繼クヲ得ス、其餘都

テ亦此ノ如ク、必ス本系ヲ先キニシテ、支系ヲ後ニシ、且、一系中ニテハ、必ス長幼ノ序次ニ従フ、而シテ其規律獨リ本族中ニ於テ用フルノミナラス、支族ニ於テモ亦同シ。○繼位ヲ定ムルハ、固ヨリ君主ノ意ニ出ル者ヲ非サレバ、其序次ニ就テ、族系ノ親疎遠近ヲ定ムルハ、必ス最後ノ君主ヲ本位トシテ之ヲ論ス、故ニ祖君ハ、素ト此繼位權利ノ生セシ濫觴ナレバ、却テ之ヲ以テ本位ト為サヌ。○此事ノ意ハ、戚族中男子悉ク没シテ、王位女子ニ移ルノ法ニ於テ、自カラ明瞭ナルヲ得

可シ

①

②



① ナル孫ハ、② ナル女、及ヒ③ ナル子ニ先テ、王位ヲ繼ク、

〔按〕 ④ ⑤ ⑥ ハ、兄弟姉妹ニ

テ、○ハ男、□ハ女、⊖ハ既

ニ没シタル男ナリ、即本

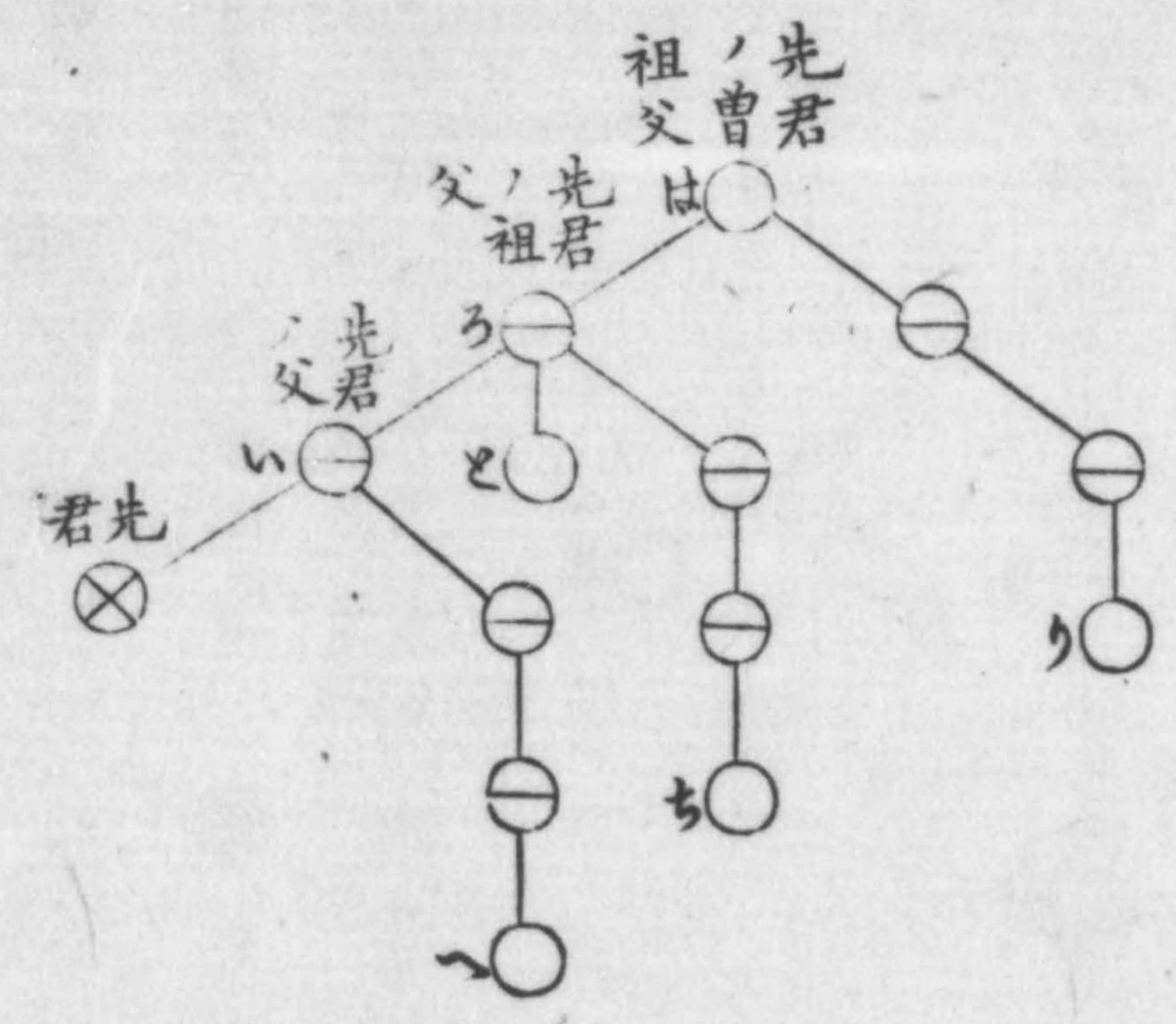
文先君ノ長子、父君ニ先

テ没セシ片ハ、其孫王位

ヲ繼テ、其長女及ヒ次子

ハ繼ク能ハサルヲ示スナリ、

- ① ナル從孫ハ、② ナル叔父、及ヒ
- ③ ④ ナル支族ニ先チ、又⑤ ハ⑥
- ⑦ ニ先チ、⑧ ハ、更ニ⑨ ニ先ツ、

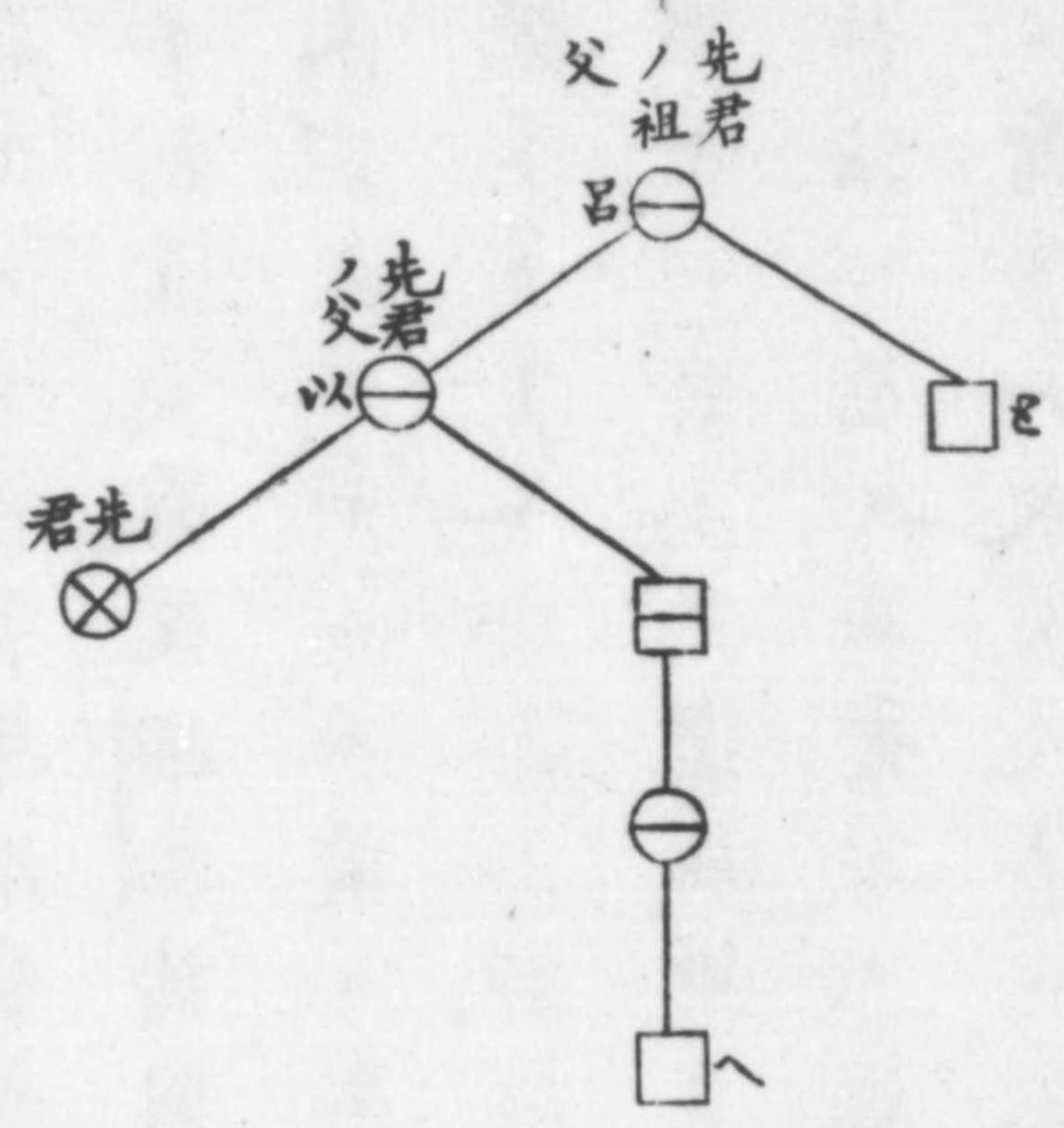


〔按〕本系ヲ先キニシテ、支系ニ
 移リ、更ニ第三、第四ニ移
 ルナリ、

③ 世普ク知ル如ク、奧地利國ニテ、嘗テハ、
 プルグ氏ニ、男子全ク缺ケシ時、最後ノ君主ニ
 最モ親近ナル女子、宜シク繼位スヘキヤ、若ク
 ハ昔時男子ニ先キタ、レテ、王位ヲ繼カザリ
 レ女子、及ヒ其子孫ハ、往時ノ王ニ親近ナルヲ
 以テ、今宜シク繼位スヘキヤ、ノ疑議起リ、容易
 ニ決セザリシカ氏、遂ニ第一論ニ決シ、最後ノ
 君主ニ親近ナル女子ヲ以テ、王位ヲ繼カシメ
 タリ。○バイエルン國ノ國憲ニ載スル所モ、亦
 之ニ同シ。○此ノ如ク男子全ク缺ケテ、女子王

位ヲ繼ク、序次ニ至リテハ、各國大抵羅馬ノ法ニ從テ、血脈ノ近キ者ヲ先キトセス、獨乙ノ法ニ從テ、族系ノ近キ者ヲ先キニシ、而シテ同系中ニテハ、血脈ノ近キ者ヲ先キニス、即チ左ノ圖ノ如シ、

①系ニ屬スル所ノ②ナル從孫ノ如シ、③系ニ屬スル所ノ④ナル叔母ニ先テ位ヲ繼ク、
 (按)族系ノ近キ者ヲ先キニシテ、血脈ノ近キ者ヲ



後ニスル所以ヲ示ス、即チ⑤ナル叔母ハ、血脈ニ於テハ、⑥ナル從孫女ヨリ近ゲレド、族系ニ於テハ、從孫女ハ叔母ヨリ近キヲ以テ、先ツテ王位ヲ繼クナリ、

但シ若シ族系血脈共ニ同シキ時ニハ、第ヲ先キニシ姉ヲ後ニ為スヘキヤ、或ハ男女ヲ論セス、只長幼ノ序ヲ用ユヘキヤ、否ニ至リテハ、定

則ナシ、英國ノ如キハ、必^ス弟ヲ先キニシテ、姉ヲ後ニスルノ法ヲ用ヒ、獨^シノ數國ニ於テハ、男女ヲ論セズ、唯長幼ノ序次ニ從フ者アリ

獨^シニテハ、長子繼位ノ法、司選候ノ國ニ於テ始テ創立シ、爾後獨^シ諸國ニ傳播シタリシカ、此法未タ立タサリシ前ニハ、各國繼位ノ事ニ就テ、爭亂多カリキ、

〔第十一〕君主ノ遺物中ニ就テ、國法ニ屬スル者ト、私法ニ屬スル者トヲ、綿密ニ分別スヘシ、其國法ニ屬スル者トハ、第一ニ、君主ノ王位ニ在ルヲ以

テ掌握スル所ノ諸公權利、^無權利中ハ、無形物ナレ^レナルモ、次ニ、國憲、或ハ一家憲法ニ載定スル所ノ所有物是ナリ、其他創立建造ノ事ニ由リ、或ハ君主ノ遺言ニ由リテ、國法ニ屬スル遺物トナル者アリ、又私法ニ屬スル遺物トハ、全ク君主ノ私有物ナリ、○國法ニ屬スル所ノ諸遺物ハ、必ス國法ノ定ムル所ニ從テ、唯嗣君獨リ之ヲ受ルヲ得、私法ニ屬スル所ノ諸遺物ニ至テハ、私法ヲ以テ之ヲ處ス、是故ニ敢テ竇作ヲ以テ、王家ノ私遺物トナス可ラス、單ニ私遺物ヲ受ル者ハ、敢テ公遺

物ニ關スルノ權ナシ

○ バイエルン國ノ國憲ニ、國法ニ屬スル遺物ト、私法ニ屬スル遺物ノ別ヲ詳ニ記載ス、其國法ニ屬スル遺物トハ、即チ左ノ條件是ナリ、第一、諸簿冊、第二、公事ニ屬スル諸館舎、及ヒ其附屬ノ物件、第三、砲銃、彈藥、兵庫、及ヒ民兵ノ要具、第四、王居ノ樂人、及ヒ吏員ノ官舎、其諸器械、此器械ハ、王居總裁ノ管スル所ニシテ、王居ノ用ニ供シ、或ハ之ヲ以テ王居ノ盛典ヲ示スナリ、第五、王居、或ハ宴宮ノ建造、又ハ其粧飾ニ用フ

ヘキ諸具、第六、家寶及ヒ先君ノ之ニ附加セシ物件、第七、文庫、理學器械庫、天工品庫、貨幣庫、古物庫、肖像庫、天文臺、及ヒ其諸器械、圖畫庫、銅版圖畫庫、其外學術獎勵ノ為メニ必要ナル物件、第八、國庫貯藏スル所ノ貨幣、及ヒ其他貨本官舎貯藏スル所ノ天工品、及ヒ歲入ノ未タ收納セサル物、第九、公費ヲ以テ得ル所ノ諸物件、其他私ニ得タル不移動物トイヘトモ、先君未タ嘗テ之カ處置ヲ為サ、レハ、是モ亦國法ニ屬スル遺物トナルナリ

第七款

繼位ニ就テ、人體ノ應否イホルツデルラセ、デルハールヒダカリベルセ

〔第二〕中古ノ時代ニハ、各國共ニ、藉土法ノ規律ニ

因テ、君位繼嗣ノ法ヲ定ムルヲ、殆ト舉世ノ風俗

ナリキ、故ニ俗君ノ國我教士ニ非ル後ニテハ、總

テ教士ノ君位ヲ繼クヲ禁シタリ、例ヘハロニゴ

バル按テロ洲ノ中古歐ノ藉土法ノ如キ、則チ此禁

ルカ加カ持レ力キ教ノ教士ハ、都テ教皇ノ扶持ヲ仰ク

ヲ以テ、若シ此後ヲ舉テ君位ニ莅マレムルキハ、

之ニ由テ大ニ獨立不羈ノ權ヲ害シ、且、國家ノ國

家タル所以ヲ失フヲ以テ、今時各國ノ國憲ニ於

テモ、亦教士ノ繼位ヲ禁スルヲ中古ニ異ナラス、

去レ氏教士タル者、若シ國家所定ノ規律ニ從テ

其職ヲ辭シ、還俗スルキハ、繼位ヲ許スト當然ナ

リ、但シ素ト教士ノ君權ヲ執レル國ニテハ、此ノ

如キ制度ナキト、固ヨリ論ヲ俟タス、

波羅持士旦按教派通常耶蘇教、又耶蘇正教ト譯

ナル派ニテハ、素ト教士ト俗人トノ別ヲ立ルト、加

持力教派ノ嚴ナルカ如クナラス、且ツ教派ノ職

派ヲ信仰スルヲ甚ク厚ケレハ、妄ニ威カヲ持テ
 臣民ノ教派ヲ妨害スルノ憂ヒ少カラス、故ニ君
 民共ニ同一ノ教派ヲ奉スレハ大ニ可ナリ、唯此
 事ヲ以テ規律ト為スハ、甚ク不可ナリ、○但シ基
 督教ヲ奉スル所ノ各國、方今ハ法理大ニ開明シ
 テ、既ニ頑陋ノ事モ絶ヘタレハ、繼位ニ就テモ、唯
 基督教ヲ奉スルト否トヲ以テ、其制限ヲ立テ、自
 餘瑣末ノ流派ヲ論スルカ如キ、陋習ヲ廢棄スル
 ニ至ラハ、將來益不可ナルナカルヘシ、
 然ルニ、英國ノ如キハ、嚴ニ制限ヲ立テ、其國法ニ

於テ、波羅特士旦王國ト自称シ、必、波羅特士旦教
 派ノ君、其王位ヲ繼クニアラサレハ、決シテ國家
 ノ安康ヲ保ツヲ能ハスト為ス、故ニ加特力教
 派ヲ奉スル者、及ヒ此教派ヲ奉スル者ト相婚セル者
 ハ、決シテ王位ヲ繼クヲ能ハサル者トス、○瑞典
 ノ如キモ、之ト相同ウシテ、必、アウグスブルグ教
 派（按）波羅特士旦ヲ奉スル者ニアラサレハ、繼位
 ヲ許サス、其他（按）希臘國モ亦其國憲中ニオルトバ
 キス、キリストリヘ、キルヘ、デス、オリント教（按）一
 臘教ト稱ヲ奉スル者ニアラサレハ、繼位ヲ許サ

サルヲ載定シ、又我羅斯ニテハ帝族ハ必、希臘
教ヲ奉スヘキノ法ヲ立ツ、

〔第三〕王位ハ、必、有名無實ナルヘカラス、是故ニ嗣

君ハ實ニ政權ヲ執ルニ堪ヘサル虧缺（按、身體精神、或、行狀

等ニ於テ、具足セサ決シテアル可ラス、○古時ノ

國法ニ於テハ、大ニ此事ニ着意シタリ、今時モ又

仍、此ノ如キ虧缺ニハ、必、着意セサル可ラス、然ル

ニ嗣君虧缺甚シカラスシテ、必スレモ之ヲ廢ス

ルヲ要セサルニ之ヲ廢シ、或ハ虧缺甚タレウレ

テ、之ヲ廢セサレハ、勢、政府亦隨テ立ツヘカラサ

ルニ、仍、之ヲ廢セサル等ノ一儘之アリシカ、此等

ノ一ハ、舉措其宜ヲ失スル者ニシテ、實ニ非理ト

云フヘシ、○此ノ如キ時ニ方リ、或ハ攝政ヲ置テ、

政權ヲ委托スルヲアレハ、此事却テ國家ノ災害

ヲ生シ易ク、且ツ攝政ノ職タルヤ、唯君主姑ク政

權ヲ執ル能ハサルノ事故アルカ為、ニ、一時權ニ

設置スル者ニシテ、決レテ終身政權ヲ執ル能ハ

サル君主ノ為、ニ、置ク可キ者ニアラス、然レニ此

ノ如キ時ニ於テ、此官ヲ置クハ、啻ニ利ナキノ

ミナラス、却テ害アリ、○是故ニ嗣君此ノ如キ虧

缺ノルニ方テハ、必、機會ヲ失ハス、恰當ノ處分ヲ
 以テ、此事ヨリ爭論ノ生スルヲ防憲シ、而シテ若
 シ虧缺實ニ大ニシテ、真ニ君主タルニ堪ヘサレ
 ハ、必、預メ立法府ノ議定ニ由テ、之ヲ除クヘシ、是
 即チ國家安寧ノ為メ、實ニ已ムヲ得サレハナリ、
 所謂虧缺ナル者ハ、下文ニ條列スル所、如シ、
 〔甲〕身體ノ虧缺、サクセスビゲル〔按〕中古獨
 ニ於テハ、陰陽人、矮人、不具人、及ヒ癩病ニ罹ル者
 等ニハ、ランドレフト〔按〕尋常ノニ屬スル、遺物相
 續ノ權利スラ、尚許サ、私法ナリ、ニ況テ君位相續ニ於

テヲヤ、去レテ癩病ノ如キハ、必スシモ治ス可ラ
 サル者ニアラサレハ、唯此疾ニ罹ルノ故ヲ以テ、
 其權ヲ奪フハ、甚タ非理ナリ、故ニ今時ニ至テハ、
 決レテ此法ニ從フコトナシ、但シ其他ノ虧缺〔按〕陰陽人
 矮人、不具ヲ受ケタル不幸人ニ、國家ノ尊貴權柄
 ヲ負荷セシムルハ、實ニ國威ヲ汚スモノト云フ
 可シ、
 藉土法〔按〕ラントト相異
 ナルモ、レレフト、藉土ノ規律ヲ定ムル所
 ナリ、法ノ規律ハ、更ニ嚴ニレテ、天性ノ啞人、聾人、盲
 人等ニハ、敢テ藉土相續ノ權利ヲ許サ、レリキ、但

レ輓近藉土ノ制ハヒケレハ、此法亦用ヲ為サ、
 ルハ論ヲ俟タス、去レ此是等ノ徒、國權ヲ執ルニ
 堪ヘサルハ、今仍同レケレハ、今時ノ法ニ於テモ、
 亦是等ノ徒ニ繼位ノ權利ヲ許サス、

〔乙〕精神ノ虧缺、一千三百五十六年正平十一年、
 定立

スル所ノゴルデ子ブルレ〔按〕中古獨ニ於テ、癡人

及ヒ狂人ニハ、繼位ノ權利ヲ許サ、リキ、○此制

度ハ、司選候國〔按〕司選候治ムノ為メニ、始メテゴ

ルデ子、ブルレニ載定セシト雖、必、此國ノ為メ

ニ、始メテ設立セシニハアラス、是ヨリ先キ既ニ

他邦ニ於テ用ヒレ者ヲ、此國ニモ亦用シカ為メ
 ニ、始メテ國憲ニ載定セシナリ、○然ルニ今時繼
 位ノ事ヨリ爭論ノ生スルヲ恐ル、カ為メニ、此
 ノ如キ虧缺アルニ方リテモ、繼位ヲ變スルトナ
 ク、唯攝政ヲ置キ、代リテ政權ヲ執ラシムル國ア
 リ、去レ此ノ如キ處置實ニ君民ノ為メニ利ナ
 ルヤ否、未タ知ル可ラス、○

○繼位變更ノトニ就テ、爭論ノ生スルニ、立法
 府ノ議定ニ因テ之ヲ裁決スレハ、和平ニ至ル
 一、甚タ難事ニアラス、然ルニ數十年攝政ヲ置

キ、之ニ由リテ生スル所ノ憂害ハ、殆ト除ク可
 カラサルニ至ルヘシ、○ダールマン（按獨乙人、
 千七百
 八十五年ニ生ス、ハノ政學書ニ云、嗣君此ノ如
 百六十年ニ死ス、キ虧缺アルカ為メニ、其繼位ノ權利ヲ奪フニ
 方リテハ、先ツ在位ノ君主、其議ヲ親戚ニ下シ
 テ、其許可ヲ取り、且ツ大臣ノ外、立法府モ亦共
 ニ之ヲ許可セサレハ、決シテ施行ス可カラズ
 ト、
 〔丙〕行狀ノ虧缺、嗣君行狀不正ノコトアレハ、必ス
 未タ其位ヲ繼カサルニ及ヒ、立法府ヲシテ之ヲ

議セシム以テ廢立ヲ定ムヘシ、今時ノ法即チ此
 ノ如シ、

第八款

第三 民主國ニテ元首起立ノ體裁トエン
 ス

テ
 一
 フ
 ン
 グ
 ス
 ホ
 ル
 ム
 ン
 、
 イ
 ン
 デ
 ル
 、
 レ
 プ
 プ
 ヲ
 キ、

〔第二〕凡ソ政府ノ職タルヤ、日々ニ變化轉遷スル
 所ノ治安ヲ要務ニ着目注意シ、其宜シキニ隨テ、
 其術ヲ活用スル者ナリ、是故ニ先ツ其方法ヲ立
 ルニ當テ、心思必、唯一ニシテ、決シテニ途ニ分ル

ヘカラス、又之ヲ施行スルニ於テ、其能力常ニ前
 進シテ、決シテ凝滯スヘカラス、但シ民會ホルク、
 サムルング、按國若クハ代國府會議ノ政ヲ以テ、
 民ノ會議ヲ云フ、若クハ代國府會議ノ政ヲ以テ、
 此二要事ヲ舉ント欲スルモ、決シテ能ハサル所
 ナリ、是故ニ近令ノ民主國ニテハ、通常政令ノ權
 柄ヲ以テ、或ハ僅々數人ニ附託シ、或ハ一人ノ全
 權ニ委任ス、瑞^ス士各邦ノ如キ、多クハ第一法按僅
 人ニ托スヲ擇用シ、亞米利加ノ如キハ、第二法按
 人ノ全權ニヲ遵用ス、而シテ此兩法共ニ、實ニ君
 主國建制ノ意ニ倣フ、顯然タル者ニシテ、第二

法ノ如キハ、殊ニ然リトス、實ニ大國ニ於テハ、此
 法制ヲ用ユルニ非サレハ、決シテ理治ヲ得サル
 ナリ、○一千七百九十五年寬政佛國ニテ、行法
 權柄ホルク、按佛國此年ニ於テ、始テ民主政體ヲ立テ、ニ委
 ム按五名ノ長官ヲ置テ、政府ノ長トナシタリ、ニ委
 托シタリ、然レモ五名ノ合議常ニ一致シ難ク、隨
 テ政令モ常ニ凝滯スルノ患アリシカ故ニ、遂ニ
 之ヲ廢シテ、更ニ按一人按三人按一人
 ノ官ヲ置キ、而シテ其第一等ノ按一人
按那破倫第一等專ラ全權ヲ握リシカ

ハ、政令ノ施設流ル、カ如ク、聊カ疑滯スルノ患
 アラサルニ至レリ、其後一千八百四十八年嘉永元年
 更ニ民主政體ヲ復セシ時ニ於テモ、暫時此ノ如
 キ合議官ヲ置キシカ、政令復常ニ凝滯スルヲ以
 テ、直ニ一人ノ統領ヲ舉ケテ、之ニ全權ヲ委子タ
 リ、按此時那破倫第三○國政ノ權一人ニアルハ
 ハ、命令常ニ一途ニ出テ、國家ノ一致和同永ク替
 ラス、隨テ臣民ノ政府ヲ尊親スルノ情自ラ厚ク、
 且ツ政府モ亦能ク其責ニ任スルヲ得、然ルニ國
 政合議ニ出ルキハ、其權カ分ル、ヲ以テ常ニ弱

ク、隨テ臣民ノ政府ヲ尊親スルノ情自ラ薄ク、且
 ツ政府官員、其責ニ專任スル者ナキニ至ル、○小
 國ニテハ、此等ノ憂害、大國ノ如ク甚キニ至ラス、
 且、小國ニテ、長官一人衆ニ超ルノ知略アルハ、
 動モスレハ臣民反テ之ヲ忌惡スルノ情アルモ
 ノナリ、故ニ合議ノ制却テ利アリ、○立法府官數
 十百員ノ中、其所見相表裡シテ、自ラ朋黨ノ相分
 ル、ハ固ヨリ必然ノ勢ニテ、怪レムニ足ラス、然
 ル此弊遂ニ政府ニ及ヒテ、纔ニ數員ノ間ニ於テ
 モ、亦所見互ニ表裡スルヨリ、朋黨分ル、ニ至レ

ハ、其一致和同全ク壞ル、モノニシテ、治安ノ憂害最モ甚カラス、^②

⊖ 瑞士合邦ニテハ、グレンダスライト 此官負

ニ政令ノ權柄ヲ托シ、其各邦ニテハレギリ

ンダス、コルレギリ 按此官負ニ政令ノ權柄ヲ

托ス、○但レ昔者州邑ニテハ、ランダムン、都府

ニテハビュルゲマイステル、及ヒスルトハイ、ス

ト云ヘル官負各一人、其長トナリテ、專ラ政權

ヲ執リ、又合邦ニテハ那破倫第一世ノ輔助ヲ

以テ、國憲ヲ立テシ時ヨリ、合邦ノランダムン

ト云ヘル官負一名、政府ノ長トナリテ、其政權

ヲ掌握シタリ、然ルニ軌近ゲンニテ定立セ

ル國憲、及ヒ今時甚ク合議ノ政ヲ喜フノ民情

ハ、恐クハ他日又再變シテ、政權ヲ一人ニ委託

スルニ至ルノ前徴ナラシ、

⊖ 瑞士各邦ニテ專ラ用フル所ノ選擇法ハ、政

府ノ不和ヲ預防スルニ足ラス、若レ合議府 按

府ノ官負ヲ選擇スルニ方リテ、先ツ統領一

人ヲ選舉シ、之ヲシテ其他ノ人負ヲ預選セ

ル、然後ニ立法府ニテ之ヲ議定スルノ法ヲ立

ル歟、然ラサレハ立法府選擇スル所ノ者、統領ノ意ニ適セサルキハ、敢テ之ヲ取ラサルノ權ヲ與ヘナハ、自ラ所見相合スル者、相共ニ政權ヲ執ルトトナルカ故ニ、合議府ノ中、不和ヲ生スルト少ナカルヘシ、○民主國ニテ、議論一致セサル徒ヲ合シテ、之ヲ合議府ニ置クノ害ハ、君主國ニテ、互ニ和セサル徒ヲ合シテ、トトリウム院ノ輔相ニ置クヨリモ、其害尚大ナリ、何者、君主國ニテハ、トトリウム院ノ輔相ニ置クヨリモ、其害尚大ナリ、君主アリテ之ヲ統一スト雖、民主國ニテハ、

合議府ノ上ニ位シテ、之ヲ統一スル者アラサ

ハナリ、按亞米利加ノ如キハ、民主國トイヘテ、政府ヲ統一スルカ故ニ、此ノ如キ害アラス、

第二政府ノ主長ヲ任スルハ、必ス選擇ニ由ル、畢

竟ホルク按蓋シ茲ニハ、親ヲ政令ヲ為ス可ラサ

ルヲ以テ、必ス公議ニ由テ長官ヲ選擇レ、以テ之ニ

國家ノ全權ヲ委子、且其尊嚴ヲ授ルナリ、故ニホ

ルク直ニ政令ヲ為スニハ、非サレ、政府ノ主長

ヲシテ、代リテ政令ヲ為サシムルノ理ナリ、

ホルク親ヲ政令ヲ施スト能ハスト雖、能ク其

主長ヲ選擇スル所以ニ就テ、論者既ニ講究スル
所アリ、其説ニ據ルニ、ホルク公議ヲ以テ、有徳ノ
君子ヲ得ル^レ難キニ非ラス、唯時アリ誤テ尋常
ノ人物ヲ選舉スル^レア^レ氏、大ニ誤リテ不徳ノ
小人ヲ選任スルカ如キハ、殆ト罕^レナリ、○ホ
ク動モス^レハ、治安ニ巧ミナル俊傑ヲ喜ハス^レ
テ、却テ之ヲ避クル^レアリ、且ツ又其好惡愛憎時
アリテ變化スルノ患ヒナキニアラス、然^レ其大
人君子ヲ仰慕スル心ハ、甚タ深切ニシテ、且ツ其
衆目ヨク君子小人ヲ辨識シ、敢テ才徳衆ニ擢^レ

スル所ノ君子ヲ忌妒シ、或ハ姦雄ノ詐謀ニ陷ル
カ如キ患ヒナシ、○ホルク常ニ其主長ノ聲譽顯
榮ヲ禱リ、而シテ自己ノ聲譽顯榮、自ラ其中ニ寓
ストス、○且ツホルク其主長ヲ選擇シテ、至當ノ
人ヲ得ル^レ、立法府議員ヲ選擇スルニ優ル數等
ナリト云フ、^{〔按〕}以上、ホルク能ク主長
右論スル所ノ理ニ由^レハ、民主國ニテハ、其主長
ヲ任スルニ、必^クホルクヲシテ直ニ之ヲ選擇セシ
ムルノ法、ホルクステルバ^レハ、全ク廢ス可ラス、
却テ立法府ヲシテ選擇セシムルノ法ニ優ルト

云、可也、古時羅馬ニテ、數百年間此法ヲ用ヒ、又方今瑞士各邦ノ中、萬民直預政治ウレンシテモカルバトシ、按萬民代預政治ト相反スル者ニシテ、所謂代議者ヲ以テ立法府ヲ立ルナク、萬民直ニ國政ニ預ル所ノ邦ニ於テモ之ヲ用ヒ、以テ國ノ榮譽利益トナス、但シ瑞士合邦、及ヒ其各邦ノ中ニモ、代國府按即立法府ヲ立ル所ノ邦ニ於テハ、代國府ヲシテ、選擇セシムルノ法ヲ用フ、○此選擇ニ法ノ利害ハ、政府一人ノ統領ヲ置クト、合議府ヲ置クトノ差異アルニ因テ自ラ殊ナリ、譬ヘハ財政或ハ庶務等、其他各課ノ長官タルヘキ者ヲ

選擇スルニ就キ、其所長ヲ視テ、之ヲ適應セル職ニ選任スルハ、代國府ニアラサレハ、決シテ能ハス、故ニ瑞士國ノ如ク、合議府ノ各員、是等ノ一分課ヲ掌ル者タルハ、國民ヲシテ直ニ之ヲ選擇セシム可カラス、然レモ一人乃至二人ノ統領國家ノ元首トナリテ、政府ノ各課ヲ統一スル者タルハ、直ニホルクヲシテ之ヲ選擇セシムルヲ以テ優レリトス、
北亞米利加ニテハ、統領ヲ選任スルニ、以上二法ヲ合用ス、故ニ選擇權利ヲ以テ、立法府ニ與ヘス、

亦直ニホルクニモ與ヘス、蓋シ此權ヲ以テ立法
 府ニ與ヘサルノ意ハ、即チ立法府ノ權カヲ減殺
 レテ、其詐謀ヲ防キ、以テ統領ヲシテ立法府衆員
 ノ部下ニ均シカラサレシメ、且ツホルクヲシテ
 大ニ政治上ニ關係スルヲ得セシメンカ為メナ
 リ、然レモ又此權利ヲ以テ、直ニホルクニ與フル
 キハ、ホルクノ權カ甚タ強大ニ過キテ、却テ政府
 ヲ蔑如スルニ至ルノ恐レアリ、是故ニ直ニ之ヲ
 ホルクニ與ヘス、必スホルクヲシテ別ニ選擇者ヲ
 ルヘキ者ヲ選舉セシメ、而シテ之ニ統領ヲ選擇

スルノ權利ヲ與フ、是即ニ法ヲ合用スル所以ナ
 リ、○是故ニ先ツ每邦會議ニテ、選擇者ヲ選舉ス
 ルキハ、此選擇者悉ク集會シ、密議ヲ以テ統領ヲ
 選擇ス、而シテ其議悉ク畢リタル後、若シ統領ニ
 選擇セラル、人名、甚タ多クシテ、決定シカトキ
 ナルキハ、之ヲ決議スルノ權ヲ代國府ニ委ヌ、
 第三政府主長頻數變更スルキハ、政令吏務、遺
 傳屢斷絶シ、且ツ永久或ハ遠大ノ事ヲ謀リテ、之
 ヲ起創スルモ、旋テ廢滅スルノ患ヒアリ、其他治
 安ノ根基ヲ鞏固ニシテ、恒ニ民ノ信義ヲ取ラン

ト欲スルモ、決シテ能ハスレテ、大ニ國家ニ害アリ、故ニ政府主長ノ屢變更スルハ、甚タ不可トス、去レ氏民主國元首ノ在職ハ、僅々數年ヲ以テ期セサル可カラス、若シ之ヲシテ終身其位ニ在ラシムレハ、即チ是レ君主國ノ選立君主ニシテ、民主國ノ元首ニハ非サルナリ、○是ニ於テ近今之ヲ折衷シテ一法ヲ立テ、元首ノ在職ハ、必、數年ヲ限ルトイヘ氏、其人能ク其職ニ適スルハ、更ニ之ヲ選擇シテ、再ヒ其職ニ就カシムルトト為セリ、○今世ノ民主國ニ於テハ此法ニ倣フモノ多

シ、獨リ一千八百四十八年、嘉永佛國立ル所ノ國憲ニハ、統領期年ニ至リテ、職ヲ去リレヨリ四年ノ間ハ、必ス再任セシム可カラサル旨ヲ記載セリ、但シ此法ヲ設ルノ意ハ、蓋シ佛國臣民ノ民主政體ヲ喜フ心情、未タ甚タ確實ナラサルヲ以テ、若シ統領ノ再任ヲ許サハ、此政體又變シテ、更ニ君主國トナランヲ恐レシナリ、然ルニ遂ニ勞シテ功ナク、政體忽チ變シテ、再ヒ君主政體トナリタリ、按此時那破倫第三世ヲ以テ統領トセシ云、遂ニ又君主トナリテ、帝位ニ登リシヲ

○華盛頓ノ説ニ、統領治安ノ事ニ於テ、聊カ間然スヘキ所ナク、天下ノ衆望全ク歸スルトモ、必期年ニシテ其職ヲ去ラシメント欲スルハ、甚タ誤マレルヲナリト云ヘリ、然ルニエ、世ノ統領第三ハ之ニ反シテ、統領再任ヲ許スノ制度アル時ハ、恐クハ遂ニ再三再四ノ復任ヲモ許スニ至ラント云ヘリ、去レ建國以來未^ダ曾テ此ノ如キ弊アルヲ見ス、

第四元首或ハ主長諸員ハ、皆自由ノ選擇ニ由リ、既ニ其人物ノ賢愚長短ヲ論定レテ、然後ニ位ニ

任セシ者ナレハ、世襲君主ノ如ク、其人體ノ應否ヲ論スルヲ要セス、

去レ氏、通常左ノ規則ニ從フヲ要ス、

〔甲〕選擇ヲ得ヘキ者ハ、必^ズ國家臣民タルノ權利、タルレツト、トゲ○ヲ全有スル者ニ限ルヘシ、但シ其他自國ニ生レタル者ニ非サレハ、決シテ選擇セザル法ヲ設ル國アリ、蓋シ我政府外國ノ議論、或ハ權力ノ為ニ、動カサル、ニ至ルヲ恐ル、トリ、

○〔按〕國中ノ民人ハ、悉皆其臣民タリト雖、氏實ニ國家ノ臣民ト稱スヘキハ、必ス定法ヲ

リ、此定法ニ洩ル、者ハ、國家臣民タルノ權
利ヲ有スル者ト云フヲ得ス、即チ女子、少年、
刑人、及ヒ貧ニシテ政府ノ救助ヲ仰ク者等
ハ、各國共ニ、國家臣民タルノ權利ヲ有セザ
ル者トス、其他ノ規律ニ至リテハ、各國皆殊
ナリ、第二卷第二十一款ニ詳ナリ、

〔乙〕老成人ニ限ルベク、
北亞米利加ニテ、統領ハ必ス
年齒三十五以上ヲ要ス、瑞
士ニテハ、成人年
齒以上ヲ要ス、

第九款 君主ノ義務、嗣君ニ遞傳スルノ法

ユールベルゲンテング、アデル、ヘルプ、リフツ、
デス、レゲンテング、アデル、ヘルプ、リフツ、
ルゲ

嗣君ハ、先君ノ私身ヲ繼續スル者ニアラス、國家
ノ君主タル職ヲ紹續レテ、之ヲ掌ル者ナリ、故ニ
先君ノ私ニ負フタル義務ハ、法ニ於テ、決シテ嗣
君ニ遞傳スルヲナク、唯君主ノ當職ヲ以テ負フ
タル義務ハ、必ス、嗣君ニ遞傳ス、是故ニ君主既ニ没
スルモ、國家及其元首ノ生命ハ、仍、依然トシテ、恒
ニ絶滅スルヲナシ、
是ニ於テ、左ノ數件ノ規律アリ、

〔甲〕君主出セシ所ノ布令、任セレ所ノ職務、及君主ノ職ヲ以テ結ヒレ條約等ノ如キハ、其君主没スト雖、舊ニ仍リテ已ムトナリ

〔乙〕君主若、他人ニ假貸或ハ救助等ノ事ヲ許シ、又ハ職官ヲ與ヘントテ約レテ、既ニ確定セシキハ、君主縱令、此約ヲ遂ケスレテ没スト雖、嗣君必、此約束ヲ果スヘキ義務ヲ繼續セサルヲ得ス、○去レ此類ノ約束、實ニ未タ確定セル者ニアラサレキハ、縱令、現ニ先君トイヘ、法ニ於テ必、之ヲ遂ヘキ義務ヲ有セス、況テ嗣君此ノ如キ義務ヲ

繼續スルノ理ナシ、但、嗣君仁孝ノ心ヲ以テ、自己ノ私情ヲ去リ、專ラ先君ノ遺意ヲ繼承テ、此約束ヲ果シ、以テ先君ヲレテ信義ヲ失ハサラシムルハ、甚タ美事ナリ、去レ此事決シテ國法ニ於テ、緊要トスル所ニアラス、唯良政ノ要則ト云フ可キノ

〔丙〕先君ノ處分セシ事ニ於テ、外面ノ證ナキ者ハ、嗣君敢テ之ニ從フヲ要セス、例ヘハ政務施行ノ事ニ於テ、〔按〕皇國ノ大臣ト各省卿ニ於テ、〔按〕兼任セルカ如キ高官ナリ、又單ニ大ノ連署ナキ者、〔按〕政務施行ニ就テハ臣ト釋ス、大ノ連署ナキ者、其事ニ預カレハ

連署スル君主ト共ニ必ス或ハ國憲ノ條規ニ合セサル者等ハ即外面ノ證ナキ者ナルカ故ニ、嗣君尋テ之ヲ施行スルヲ要セス、○總テ此ノ如キトハ、唯君主ノ威權ヲ恃テ為ス所ニシテ、決シテ君主タルノ職ヲ以テ為ス所ニアラス、故ニ先君ノ在位中トイヘ氏、敢テ國法ニ合スル所ノ處分ト為スニ足ラス、況テ先君ノ没後ニ於テヲヤ、然ルニ又先君ノ處分セシテ、縱令實着非理ニ屬シ、或ハ大ニ國家ノ公利益ヲ害スルト明ナリ氏、既ニ外面ニ於テ、法ニ合スルノ證アルキハ、按國憲ニ

停戾スル所ナク且、此ニテ嗣君恣ニ之ヲ廢スルモ既ニ連署セル者ヲ云ス、嗣君恣ニ之ヲ廢スルヲ許サス、何者、一旦國法上ニ於テ當理トナリシ事、唯君主ノ卒去ニ由テ、忽不正非理ト變スル、理決シテ有ラス、總テ事ノ善惡邪正ハ、君主ノ死生ニ由テ、決シテ變易スル者ニアラサレハナリ、吾輩國法汎論ニ於テ、公明正大ノ理ヲ以テ論スル所此ノ如シ、
〔丁〕君主變スルカ為ニ、法亦隨テ變スルノ理、決シテ有ルトナシ、去レ先君制定セシ所ノ法ヲ、嗣君更ニ改革スル能ハサルノ理モ、亦決シテ有ルト

ナリ、嗣君之ヲ改革スルノ權利ハ、即先君ノ之ヲ
 制定セシ權利ト全ク同一ナリ、何者、國家ハ日々
 ニ開明進歩スル者ナレハ、其法モ亦隨テ變革セ
 サル可ラサルヲ以テナリ、○去レ之ヲ改革スル
 ニハ、必ス國法ニ於テ定ムル所ノ規律ニ由テ處置
 シ、○且之ニ由テ決シテ得有ノ權利ヲルベシ
レフト、^應權利ニ有スル所ノ權利ヲアリ、原有トハ、
 人、生レテカハラニ有スル所ノ權利ヲ云ヒ、得有トハ、
 縣令神田孝平ヨリ生スル所ノ權利ヲ云ヒ、兵庫ヲ
 傷害スルヲナカル可シ、

○例ハ、先王嘗テ國法ノ規律ニ從テ、自己ノ

權利ヲ廢セシテアリ、今之ヲ復スルヲ、繼令國
 家ノ為ニ甚緊要ナリ、氏恣ニ之ヲ為スヲ得ス、
 必之ヲ立法府ニ謀リ、天然後ニ議定スルヲ要
 ス、

〔先君ノ私債ハ、嗣君ノ決シテ償フヘキ者ニア
 ラス、唯先君ノ私産ヲ繼續セル者、私法ノ規律ニ
 從テ、之ヲ償フノ義務ヲ受クヘキノミ、繼令王室
 家産デスタコロト、^トノ為ニ、此ノ如キ負債ヲ為ス
 ト雖、國君タルノ職ヲ以テ為セシニアラサレ
 ハ、嗣君決シテ之ヲ償フノ義務ヲ受クルヲナシ、

○但レ若レ此ノ如キ負債ニ因テ、王室ノ産ヲ増殖
スルコトアルキハ、其増殖セシ數ニ應シテ、之ヲ償
ハサル可カラズ、猶ヒデークロムニスグロト、却及
贈遺等ヲ禁ス或ハレヘンダート接籍土ノ如
ル所ノ遺物却及ク物主ヨリ如
籍ノ用スル物、ノ法ニ於ケルカ如シ、

第十款

第四 攝政職ノ設置、ベレグレンツレグデ
第二世襲君主國ニテハ、嗣君幼冲ト雖モ、位ヲ繼
テ政權ヲ掌握スルモ妨ナシ、去レモ成長ノ後ニ至

ラサレハ、實ニ此權ヲ施行スルコト能ハス、故ニ其
幼年ノ間ハ、必ス攝政ニトグヲ置キ、代リテ政權ヲ執
ラシムルヲ要ス、

攝政ヲ置クキハ、國家ニ害アルコト多キヲ以テ、昔
時既ニ君主ノ幼冲ト稱スル年齒リゲンカイルト、エ
テ、私法ニ於テ幼冲ト稱スル年齒ヨリ短カスル
ノ制ヲ立テ、而シテ此年制ヲ過キテ、既ニ成人ノ
年齒グカイルト、届レハ、直ニ攝政ヲ廢スルヲ
以テ、通法トナシタリ、元來國家ノ治安ハ、甚容易
ノ術ニアラサルニ、斯ル君主ノ幼年間ヲ縮メテ、真

ラサル間ハ、收テ其決議ニ預ルヲ得サル由ヲ載定ス、然ルニ西班牙^{イヌバニヤ}一千八百三十七年^{天保ノ國}憲第五十六款ニ、齡十四ニ至ル迄、君主ノ幼年ト為ス由ヲ載ス、同國^一千八百十二年^{ノ國憲第}君主ノ成人ト為ス由ヲ載セタリ、又佛國^ニテハ、^甲利第五世在位一十三百七十四年ヨリ、年齒十^四人ト為シ君主ノ成人ト為シタリ、

第二中古ノ國法ニテハ、幼君ニ代リ、政權ヲ掌握スル所ノ攝政職ヲ以テ、兼テ君主ヲ保傳スル職トシ、^小キルムンノ如ク視做ス^ト常ナリシカ、今時ノ國法ニテハ、大ニ其別ヲ明ニシ、攝政職ハ、國家治

平ノ為ニ設ル所ニシテ、全ク君主ニ代リテ、政權ヲ掌握スル者トナシ、保傳ノ職ハ、唯幼君ノ私身ヲ輔翼スル者トナス、是故ニ攝政ト保傳トハ、其人ヲ殊ニスルモ妨ナク、而シテ攝政ニ任シタル者ニハ、政令ヲ托シ、保傳ニ任シタル者ニハ、君主私有ノ事務ヲ托ス可シ、

是故ニ現立國法^{ボレチ}ハ、設立スル所ノ國法ヲ云、中、故ニ攝政設置ノ規律ヲ設ケサレハ、必私法ノ規律^例ハ、遺言^{君主}、憲法^{王家}、或^{一家}憲法^{憲法}ノ類ヲ云、或ハ政府命令ヲ以テ定ムニ從テ、攝政ヲ任

スルヲ、當然ナリト云フ論アレド、決シテ取ル可
 ラス、總テ私法ノ規則ヲ以テ、之ヲ國事ノ區域ニ
 轉用スルカ如キハ、必、方令ノ制度ニ適セサルナ
 リ、故ニ萬一令時ノ現立國法上ニモ、仍、攝政設置
 ノ規律ハ、必、私法ニ從フ可キ由ヲ載スルキハ、已
 ムヲ得サレド、若レ否ラサレハ、必、國法ノ規律ニ
 從ハサル可ラサルヲ、固ヨリ論ヲ俟タス、
 方令ノ諸國憲ニハ、攝政設置ノ規律ヲ載定スル
 一詳ニレテ、或ハ預メ其定規ヲ設クル者アリ、
 或ハ臨時ニ之ヲ任スルヲ以テ、規律ト為ス者アリ、
 或ハ臨時ニ之ヲ任スルヲ以テ、規律ト為ス者アリ、

リ、○攝政ヲ任スルノ權ヲ以テ、單ニ君主ニ托セ
 ス、又單ニ兩院ニモ托セス、
 ②必、立法府ノ憲法
 主兩院相議定スヲ以テ、之ヲ定ムルノ規律アリ、
 ③蓋、能ク立憲世襲國ハ、コンスチテオトルニ適
 應スル法ト云フ可レ、去レ若、君主在命ノ日ニ於
 テ、未タ此ノ如キ憲法ヲ設立セサレハ、幼冲ナル
 君主ノ最親戚ノ者、代リテ此憲法設立ノ會議ニ
 參列ス可レ、而レテ此人若、決議ニ預レテ得サ
 ルモ、必、共ニ之ヲ議スルノ權アル可レ、荷蘭ノ制
 度即チ此ノ如シ、

○巴以里國ノ國憲第二篇第十章ニ云、君主成人年齒ニ達シタル王族ノ中ヨリ、嗣君ノ幼年中、攝政職ニ任ス可キ者ヲ選舉スヘシ、若、君主未タ之ヲ選舉セズレテ没スレハ、父族（アグナト俗ニ父方ニ同シ、親戚中ニテ、嗣君ニ次テハ第一ニ繼位ノ權利ヲ有セル成年ノ王族、攝政トナル可レト、○又西班牙國一千八百三十七年（天保八年）ノ國憲第五十七款ニ云、君主ノ父、又ハ母、或ハ君主ニ次テハ第一ニ王位ヲ繼クヘキ權利ヲ有セル王族、攝政トナル可レト、○葡萄牙國一

千八百二十六年（文政九年）ノ國憲第九十二章ニ云、君主ニ最モ親近ナル王族、攝政トナル可シ、但、年齒必二十五以上ヲ要スト、○普魯士國ノ國憲第五十六、及、五十七章ニ云、父族中ニ於テ最モ親近ニシテ、能ク其任ニ堪ユヘキ者、攝政トナル可シ、但、兩院其補助トナリテ之ヲ選擇ス

ト、
○比耳時ノ國憲第八十一章ニ云、兩院合併シテ、攝政ヲ選任スト、○瑞典國一千八百零九年（文化六年）、國憲第九十三款ニ記スル所モ之ニ同

クシテ、ライフス、ステンデ〔按〕立法府ナリ、議シテ、一名

若クハ數名ノ保傅ヲ選任スト云、〔按〕此ニ國ノ

ハ、攝政ヲ選任スルノ權利ヲ

以テ、單ニ兩院ニ托スルナリ、
③英國、荷蘭國、佛國等ノ制度ニ於テハ、攝政ヲ

選任スルハ、必、立法府ノ憲法ニ出ツ、〔按〕此三國

ニ如キハ、即立憲世襲國ニ適應スル者ナリ、

〔第三〕但、攝政ヲ設置スルニ、童ニ幼君ノ時ニ於テ

スルノミニ非ス、又成人年齒ニ屆レル君主ト雖

モ、登祚ノ後、事故發シテ、政權ヲ執ル能ハサルニ

方リテ、其事故或ハ甚大ナルニ非サル歟、若ク

ハ久シク存スルニアラサレハ、必、攝政ヲ置テ、
権リニ之ニ政權ヲ托スルヲ要ス、其事故ト稱ス
ル者ハ、左ニ臚列スルカ如シ、

〔甲〕身體ノ虧缺、例ハハ聾、瞽、啞、及、大患、

〔乙〕癡狂及之ニ類スル精神病、例ハハ癡愚及最

モ甚シキ憂悶、

〔丙〕久シキ不在、〔按〕久シク國內ニ或ハ幽囚、

〔丁〕大ニ君職ヲ損害スル諸業、例ハハ暴逆無道、

暴ニ國憲ニ悖戾セル政令、及、公然治安ヲ害スル

苛政、

〔戊〕私法ヲ破リテ、自ラ君主ノ體面ヲ汚辱スル所業、

〔己〕行狀不善ニシテ、大ニ臣民ノ尊崇ヲ失ヒ、遂ニ政權ヲ保ツテ能ハサルニ至ルヘキ所業、

右諸事故中、殊ニ丁戊己ノ如キ者アルニ方リテ、攝政ヲ設置シテ、君主ニ代ハラシムルハ、殊ニ條理及事業ニ於テ、甚タ施シ難シトス、條理ニ於テ施シ難シトスルハ何ソヤ、抑此ノ如キ時ニ方リテ、君ノ非ヲ舉テ其政權ヲ放タシムル者ハ、即臣民ナララ以テ、冠履全ク顛倒スト云フヘシ、故ニ

纒ニ其政權ヲ奪フノ外、他罪ヲ加フルヲ能ハサレハナリ、又事業ニ於テ施シ難シトスルハ何ソヤ、總テ暴惡ナル君主ハ、輒ク政權ヲ放ツ者ニアラス、必ズ暴威ヲ逞シテ、攝政ヲ置ント欲スル徒ニ抗シ、以テ遂ニ之ヲ壓倒スルニ至レハナリ、但合同邦ツツテ、サムメンデキノ如キハ、各邦憲法ノ外、仍全國ノ國憲、若クハ合同國憲ト稱スル、合同各邦ヲ統一スル所ノ規律アルカ故ニ、此ノ如キ時ニ方リテモ、其設置ヲ得ル自ラ難カラス、〔按〕同邦ノ如ク是故ニ近令ノ國家學者中、唯甲乙丙

ノ事故ノ為ニ攝政ヲ置クヲ許シテ、丁戊己ノ事故ノ為ニ之ヲ置クヲ許サル者アリ、蓋甲乙丙ノ事故ノ如キハ、其事實素ト政權ヲ執ル能ハサルヲ明カニシテ、決シテ君主ノ行狀ニ由ル者ニアラサルカ故ニ、速ニ判定シ易シト雖、丁戊己ノ如キハ、悉ク君主ノ行狀ニ關係スル者ニシテ、自ラ甲乙丙ノ如ク判定シ難キヲ以テナリ。○夫此ノ如キ時ニ方リテ、正義ノ術ヲ用ヒテ、速ニ君主ノ暴惡ヲ防ク能ハサルキハ、臣民殆ト之ニ堪ユル能ハスレテ、遂ニ不正義ノ術ヲ用ヒテ、顛覆

ヲ謀ルニ至ラント必セリ、但此事ニ付テハ、末款君主不保任ノ條（即第三款）ニ於テ、尚詳論セント欲ス、就テ看ル可シ、

〔第四〕民主國ニテハ、元首幼冲ノ患ナキカ故ニ、攝政ヲ要スルト幾希ナリ、且若統領就職ノ後、事故ニ由テ政權ヲ執ル能ハサルキハ、必副統領之ニ代リテ、政權ヲ施行スルカ故ニ、決シテ政令ノ為ニ妨ケナシ、然ルニ民主國ニテ、一ノ患ト為スヘキハ、統領副統領同ク没スル歟、若クハ其在職ノ期既ニ滿テ、副統領ノ選擇未定マラサル時ニ於

テハ、恰モ選立君主國ナリモ、ニ於ケルカ如ク、
國家首領ヲ失フテ、一時虚位國ラツキセン
ニ在リ、

第十一款

第五 政柄ノ失去、ハ、ヘル、スト、デ

第一 辭謝

又、エント、サング、ダ、

君主政權ヲ辭謝

シテ、之ニ附属セル義務ヲ棄テント欲スルハ、
其自由ニ任シテ可ナリ、然ルニ此自由ヲ妨ケテ、
猶政柄ヲ掌握セシメント欲スルモ、素、治國ノ責

ニ任スヘキ力ノ足ラサル者ラレテ、強テ其責ヲ
負荷セシメントスルナルカ故ニ、甚、理ニ當ラ
ス、且、國事ヲ好マサル者ラレテ、強テ國事ヲ掌ラ
シメント欲スルモ、國家ニ於テ小益アラシテ、
却テ害アリ、但、強レ僅ニ一邑ノ如キ小民主國ニテ
例ハ、瑞士國ハ、山ニ多キ邦等ニ於ケルカ
如レ、瑞士國ハ、山ニ多キ邦等ニ於ケルカ
但レ世襲國ニテハ、辭謝ニ二様アリ、一ヲ無約辭
謝ト云ヒ、ニヲ有約辭謝ト云フ、君主其位ヲ辭ス
ルニ方リテ、他日重祚ノ約ナケレハ、宛モ没去ニ
由テ、其位ヲ去リレニ殊ナラス、之ヲ無約辭謝ト

云、又君主嗣君ノ為ニ謀リテ、一旦其位ヲ讓ル
ト雖、嗣君他日若先ツテ没スルコトアルハ、必ス
重作スヘキノ約ヲ立ルコトアリ、之ヲ有約辭謝ト
云ス、

第二黙謝、スニチルサログイゲンデ、
敢テ自ラ辭謝
セス、唯執ニ由テ自然辭謝トナル者アリ、之ヲ
黙謝ト云ス、但之ヲ認定スルコト自ラ容易ナラス
ト雖、其事實ハ決シテ明謝ニアラスド、リクハ、エ
章論スル可ク、ニ異ナラス、君主若ク其國ヲ去ル
歟、若クハ永ク政務ヲ棄ルニ至ルハ、則黙謝ト

定メテ可ナリ、既ニ一千六百八十八年元禄英國
顛覆ノ時ニ於テ、其巴カ門議負ノ中、真ニ王室ニ
左祖セレ黨スラ、尚此理ヲ認許レタリキ、按英國
民王ニ叛テ世在位ノ時、教法ノ事ヨリ騷乱起リ、國
ハス、遂ニ他國ニ奔リタリ、然ルニ此時王ニ左祖
セレ黨スラ、猶之ヲ王トスルニ能ハス、其黙
謝ヲ認定○又君主自カラ其版圖ヲ他人ニ賣却
シ、或ハ授與スル時ニ於テモ、其事ノ理非ヲ論セ
ス、總テ君主ノ黙謝ト定メテ可ナリ、

第三國憲ノ規律ニ從テ、實ニ君位ニ在ル可ラサ
ルノ理生シタル者、ソルトトシ、ト、ア、イ、子、ル、ア、ブ

トイ 例ハ、英國ノ國憲ニ於テハ、君主カトリキ加特力教
派基督舊派ニ轉依スルキハ、敢テ君位ニ在ル可
ラサルナリ、○但、方今ハ此ノ如キ時ニ於テモ、亦
實ニ甚シカラサル虧缺アル時ニ於ケルカ如ク、
唯攝政ヲ置テ、代リテ政權ヲ掌握セシムルヲ以
テ、足レリトスル國アリ、

第四廢位、フランス中古ノ頃ニハ、君主國ニテ
屢廢位ノ事アリキ、民主國ノ如キハ、今仍此規律
アリト雖、凡方今君主國ノ國法ニテハ、通常此規
律ヲ用フルヲ許サス、猶本卷第十
三款ニ論ス、

第五奪位、エントグ、ロ 第一、敵國外寇、暴威ヲ以
テ君位ヲ奪フコトアリ、第二、國民舉テ顛覆ヲ企テ、
以テ君位ヲ奪ヒ、君主政體ヲ倒スコトアリ、第三、霸
者篡奪ヲ企テ、君主ヲ倒シ、以テ國權ヲ吞ムコト
アリ、古今此等奪位ノ例、最モ尠カラス、
右三件第五中第一、第二、ハ、皆現ニ君主政治施
行ノ事業ヲ奪フ所以ニシテ、未タ併セテ其權利
ヲモ奪フニアラス、君主事業ト共ニ其權利ヲセ
放棄セサルキハ、遂ニハ權利ヲ有スル君主ト、及
ヒ事業ヲ執レル君主、或ハ政府ト相分レテ、名實

相離ル、カ故ニ、各互ニ名實ヲ併有セント欲レ
 テ、相争フニ至ル、實ニ權利ト事業ノ相分ル、ハ、
 甚、歎スヘクレテ、國家ノ患害之、ヨリ大ナルハナ
 リ、
 名義正レカラサル君主〔按〕未タ權利ヲ併有スル
 能ハスレテ、唯事業ヲ奪
 君主ハ、威權自ラ強大ナルカ故ニ、速ニ國民ヲ制
 服セント欲ス、國家實力アル所ノ政府ヲキキハ、
 其安寧秩序、獨リ存ス可ラサルヲ以テ、臣民亦自
 ラ此君ニ服從レテ、其命令ニ恭順スルニ至ル、是
 ニ於テ此君遂ニ其志ヲ得可シ、縱令儘之ニ服セ

スレテ、其命令ヲ拒絶セント欲スル者、若クハ其
 黨與アルモ、僅ク數人ノ力、能ク企テ及フ可キニ
 アラス、直ニ兵隊、法官、警守官等ノ為ニ、制壓セラ
 レン、ト必然ナリ、是時ニ方リテ、名義正レキ君主、
〔按〕既ニ事業ヲ奪ハレテ、唯己ニ忠良ナル臣民ヲ
 空ニ權利ヲ有スル君主、已ニ忠良ナル臣民ヲ
 保護セント欲スルモ、力足ラサルヲ如何セン、君
 主自ラ臣民ノ權利ヲ保護スルヲ能ハサレハ、臣
 民君主ノ權利ヲ敬重セスト雖也、亦之ヲ如何ト
 モス可ラス、○去レモ又名義正レカラサル君主、
 名義正レキ君主ヲシテ、全ク權利ヲ放クンムル

能ハス、其威カヲ以テ臣民ヲ壓服セレカ如ク、此君主ヲ壓服シテ、全ク其權利ヲ奪フヲ甚、容易ナラス、

①英國ニテハインリヒ第七世ノ時一千四百九十四年明應三年巴カ門ノ議定ニテ、現ニ事業ヲ執レル君主ニ勲功アリレ徒、謀反ノ罪、若クハ他罪ヲ以テ刑ス可ラザル旨ヲ令レタリ、①

〔按〕ハインリヒ第七世嘗テリカルド第三世ヲ撃テ之ニ勝テ、遂ニ王位ニ登リタレ、國民猶舊王室ヲ慕フテ、新王室ニ勲功アル

者ヲ惡ミレ故、巴カ門ニテ此ノ如ク議定シテ之ヲ令レタリ、茲ニ事業ヲ執レル君主ト云フハ、即ハインリヒ第七世ナリ、

國ノ假法ヲ、遂ニ轉シテ國法トナルノ機會ハ、即茲ニ於テ生ス〔按〕假法轉シテ國法トナルノ國論ハ、首卷第九款ニ詳ナリ、國ノ假法ヲ以テ、恣ニ之ヲ國法ト為サント欲スルモ、決シテ能ハス、然ルニ強テ之ヲ國法ト為ントスルハ、大ニ法ノ法タル本旨ヲ害スト云フ可シ、真ノ法タルヤ、唯直ニ事業ニ施レ得ルヲ以テ足レリト為ス可ラス、必亦其間ニ道義ヲ存セスハ

有ル可ラス、故ニ徒ニ人カヲ以テ、假法ヲ轉シ、眞法ト爲サント欲スルハ、甚誤レルヲナリ、故ニ霸者唯其威權ヲ逞クシテ、國民ヲ制服セシノミニテハ、決シテ名義正シキ君主ト稱スルニ足ラス、代國府、及諸職官、殊ニ法院等、皆此霸者ヲ認テ君主トスルニ至リテ、始テ眞ニ名義正シキ君主ト稱ス可シ、故ニ此時ニ至リテハ、臣民タル者、皆必ス此君主ヲ奉シテ、其命令ニ恭順セスハ有ル可ラス、我假法ナル者、始テ眞法トナルノ機會、即此時ニ在リ故ニ曾テ位ヲ奪ハレレ君主、我即名義正全ク其

權利ヲ失フノ期限アリ、即、國內ニテハ、臣民名義正レカラサル君主ニ抗スル能ハスシテ、遂ニ之ニ服従スルニ至リ、又外國ニテハ、其政府兩君名義正レキ君主ト、正レノ間ニ周旋シテ、和平ヲ復セントスルノ謀遂ニ成ラサル歟、若クハ兵力ヲ以テ名義正シキ君主ヲ接タルノ力盡テ、却テ名義正シカラサル君主ト和スルニ至ルキハ、既ニ名義正シキ君主恢復ノ術盡ル時ニシテ、是正ニ此君ノ全ク權利ヲ失フノ期限ナリ、
〔第六〕攝政ハ、嘗テ之ヲ設置セレ、旨意已ムキハ、則



其職ヲ失フ、一當然ナリ、其旨意ノ已ムトハ、即チ
 幼冲ノ君主没シテ、嗣君位ヲ繼ク歟、若クハ幼君
 既ニ成人年齒ニ至ルヲ云フナリ、但シ其旨意
 實ニ已ムヤ否ノ一、決シ難キキニ方リテ、攝政ノ
 廢置ヲ定ムルニ就テハ、必嘗テ之ヲ設置セシ時
 ニ於テ要レタル國法規律ニ從フ可シ

國法汎論卷之六 中終



大井潤一 校

0
2
E